【和鉄の道2020】　【スライド動画】【Photo Album】 2020秋コロナ禍の中で

水田稲作の始まり　縄文人と弥生人共生を明らかにした猪名川河口域の村

伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪
久しぶりに周辺の猪名川・藻川walk　2020.11.15.

縄文晩期/弥生早期 関西の水田稲作は　縄文・弥生の人たちが共生して暮らす中で始まった

猪名川の河口域には そんな水田稲作の村が幾つもあった

内　容

1. ８年前の和鉄の道・Iron Road 2013　「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf
   今回のwalkのoutline 田能遺跡・口酒井遺跡の概要は８年前のこの資料で
2. 田能資料館開館50周年特別展「田能遺跡の弥生人」　小冊子 2020.11月より
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanotokubetsuten.pdf
3. 伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪　久しぶりに周辺の猪名川・藻川walk　2020.11.15.
   ◆ MP4スライド動画　◆ PDF Photo Album　◆ pdf web file
   mp4 スライド動画; https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalk.mp4

約8年前2012年12月に田能遺跡資料館で開催された「弥生の鉄」展を機会に訪れた田能遺跡・口酒井遺跡についてまとめた資料の書き出しに両遺跡について下記の解説がある。

「尼崎・伊丹・豊中の境界部にある伊丹空港とその西側を南北に流れる猪名川に挟まれた地域は縄文晩期(または弥生早期)　弥生の始まりから数多くの集落があり、日本各地からやってきた縄文・弥生系の人たちが交流しつつ、数多くの水田稲作を進める集落を営んできたという。

土地や水利を巡る争いがあったものの、縄文/弥生系の人たちは交流・混在・共生しながら、水田稲作の社会を築いた関西の先駆け。関西での水田稲作の始まりを解き明かす糸口を提供した口酒井遺跡が今　都市化の波で忘れ去られようとしている。」

弥生の新しい時代を切り開いたのは「争い」ではなく、「共生」だったことを示す重要な遺跡である。

「心優しき縄文人　日本の心のふるさと」と私はいつも言うのですが、

この口酒井遺跡が示す「縄文人と弥生人の共生についてもその証」といつも頭にありました。

あれから8年　2020年11月　尼崎市立歴史博物館開設に伴い、博物館と一体となった田能遺跡資料館開設50周年記念特別展「田能遺跡の弥生人」が資料館で開催されているのを知りました。「田能遺跡の弥生人はどのような人たちだったのか？」

周辺の弥生遺跡も含め、人骨や墓にスポットをあてて展示紹介。

弥生の戦さの痕跡が残る勝部遺跡や口酒井遺跡の出土品も展示」という。

是非とも関西での弥生の始まりを示す口酒井遺跡の出土品ならびに縄文/弥生人共生についての研究の進展を知るまたとない機会。

11月15日　8年ぶりに田能遺跡資料館を訪ねるとともに、周辺の藻川・猪名川土手を歩きました。

口酒井遺跡は住宅や工場の下に埋没。痕跡は地下に眠っていましたが、この8年周辺もよく整備され、遺跡のすぐ横の河川敷は素晴らしい散策公園に。

猪名川が流れ出る北摂の山々を背景に広がる素晴らしい秋景色。

昔を思い浮かべながら　心地よい散策できました。

■　関西での稲作の始まりと口酒井遺跡・田能遺跡

かつて　弥生人が縄文人を駆逐して弥生の世が広がっていったと言われたこともありましたが、今　弥生の時代感は大きく変更されている。

弥生のはじめ、現在の伊丹空港周辺はかつて猪名川・淀川河口の広い湿地帯。縄文・弥生の人たちが各地からやってきて、集落を作り、関西で初めて水田稲作を始めたという。それを明らかにしたのが口酒井遺跡の出土品と言われるが、不明な点も多い。今回の田能遺跡特別展では田能遺跡周辺の弥生遺跡から出土した墓と人骨からどんな人達が集まってくらしていたか?を探る特別展渡来系弥生人と縄文人の交流・共生の中で日本列島に水田稲作の弥生時代が広がっていったという。

私にとっては願ってもない特別展。

また、コロナ禍の中で　分断・格差そして競争・同調圧力が益々強まる今の時代

共生・融和・平和の暮らしを眺めるよい機会と。

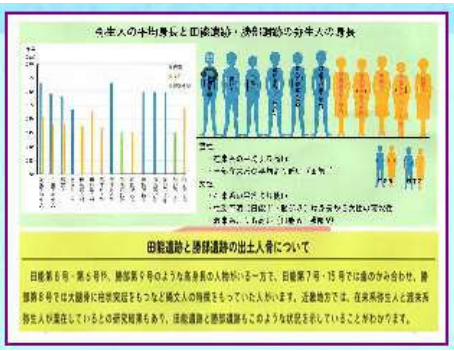
■　関西での水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を明らかにした口酒井遺跡

縄文晩期（弥生早期）この地で作られた弥生系土器に縄文のデザイン　また籾圧痕がついた土器などが出土

8 年前の和鉄の道・Iron Road 2013　「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」より

■　田能遺跡と田能遺跡博物館特別展展示概要

田能遺跡博物館特別展展示「田能遺跡の弥生人



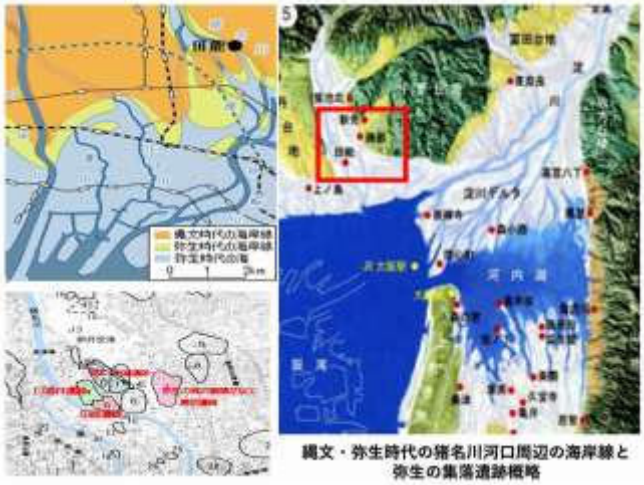
特別展の内容は小冊子に展示内容がそのまま写真記録されていたので、各遺跡の人骨調査結果のみを転載。

特別展小冊子を Pdf 資料にして添付。紹介に代えさせていただきました。

■【PDF 転載】田能資料館開館 50 周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子をこの資料の後に添付しています

photo Album　久しぶりに周辺の猪名川・藻川 walk　2020.11.15.

秋晴れの川べりの散歩道　解放感一杯　すがすがしく、心地よい


縄文・弥生時代の猪名川河口周辺の海岸線と
弥生の集落遺跡概略

私はいつも「心優しき縄文人日本の心のふるさと」と言いますが、口酒井遺跡や田能遺跡などかつての猪名川河口周辺の弥生遺跡が示す「縄文人と弥生人の共生も」その証。
久し振りにかつての猪名川河口近くの藻川・猪名川周辺を歩き、また、田能資料館特別展「田能遺跡の弥生人」展でそれが確認できました。　いつも頭にありながら、情報が得られなかった弥生人と縄文人の共生を考え、教えてもらえた、うれしい一日でした。
ロナ禍が世界的に広がる中　ますます日本・世界とも暮らしは厳しく、自己中心的な「分断・差別・格差」に向かっている。でも人類が幾多の困難を乗り越えて今の繁栄を築くことができたのは人類だけが持つ「相手を思いやる心」だといい、人類の歴史がそれを示している。
決して二者選択の選別・分断・競争などの力ではなかった。
「相手を思いやる心」の発露が「心のやさしさ」「共生・平和」だと。
約 8000 年の長きにわたる持続社会を作り上げた日本の縄文もその証。
それにもう一つ水田稲作の始まりの「縄文人と弥生人の共生」が加わった。
「心のやさしさ」「相手を思いやる心」が作る平和な暮らしを願う昨今です。

いま、頂点同調圧力の中　考えることを放棄するような短絡的 AI・デジタル化をうたう欺瞞一杯の情報化社会の流れ。コロナ禍がもたらした新しい時代の生き方をそれぞれが考える一助になればと
また、コロナ禍の中での近隣 walk　西神戸にいる私の足は山や近隣の里に向く毎日。
今回、秋晴れの川べりの散歩道　解放感一杯　すがすがしい。
うれしい一日を思い浮かべながら、阪急園田駅へのバスに揺られている。

2020. 11. 15.　夕暮れ　久し振りの市バスも心地良く　バスに揺られて

Mutsu Nakanishi

参考　　未だ収束が見通せぬ　2020 コロナ禍の中で

伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪 Walk　2020.11.15.

1. 8 年前の和鉄の道・Iron Road 2013
   「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf
2. 田能資料館開館 50 周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子　　2020. 11 月
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanotokubetsuten.pdf
3. 「他人を思いやる心」今一度　そんな視点にも　思いをはせてほしい
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211kokoro00.htm
4. 藤尾慎一郎氏の著作「<新>弥生時代 -500 年早かった水田稲作-」を教科書に
   弥生時代の鉄と稲作 & 弥生時代の時代感　整理メモ
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0209newyayoi00.htm

---

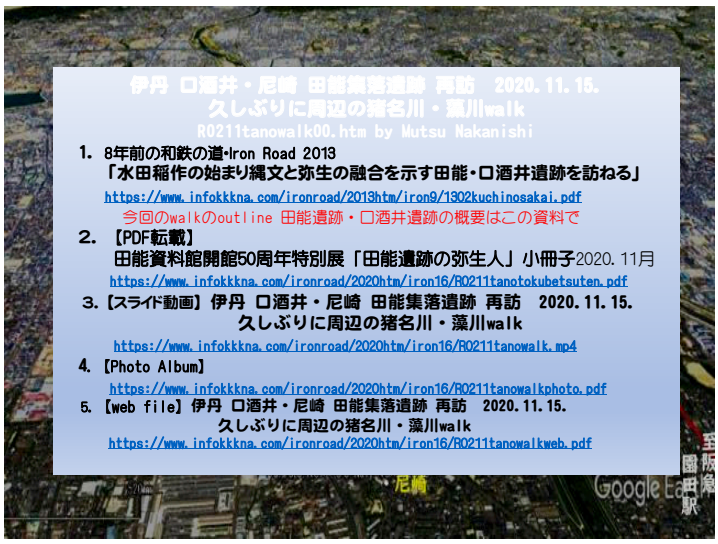
この資料の後に下記の資料を添付しています

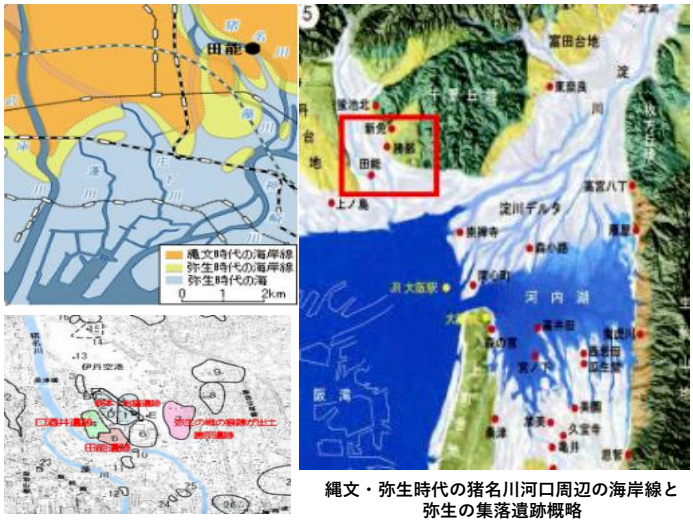
1. **【写真アルバム】伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪　久しぶりに周辺の猪名川・藻川 walk　2020.11.15**
2. 8 年前の和鉄の道・Iron Road 2013
   「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」
3. 田能資料館開館 50 周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子　　2020. 11 月

【スライド動画】久しぶりに周辺の猪名川・藻川 walk　は下記　和鉄の道 home page アドレス似アクセスください

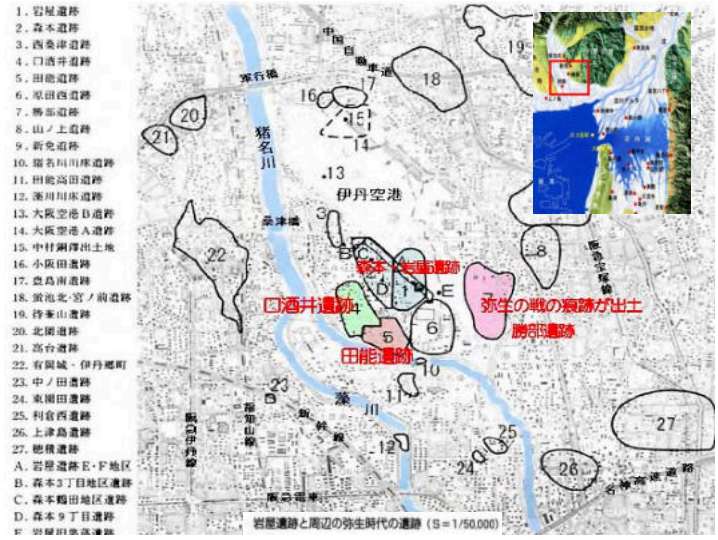
https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalk.mp4

1. 【写真アルバム】伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪　久しぶりに周辺の猪名川・藻川walk　2020.11.15





縄文・弥生時代の猪名川河口周辺の海岸線と
弥生の集落遺跡概略

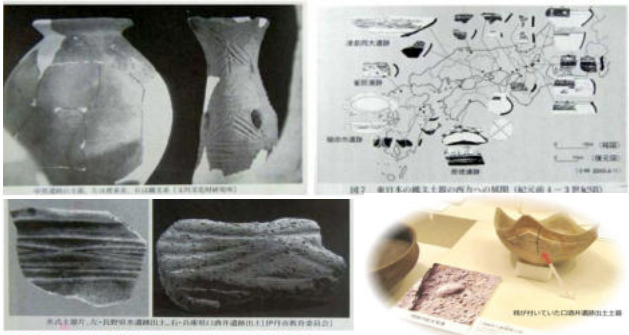


約8年前2012年12月に田能遺跡資料館で開催された「弥生の鉄」展を機会に訪れた田能遺跡・口酒井遺跡について
まとめた資料の書き出しに両遺跡について下記の解説がある。
「尼崎・伊丹・豊中の境界部にある伊丹空港とその西側を南北に流れる猪名川に挟まれた地域は縄文晩期(または弥生早期)　弥生の始まりから数多くの集落があり、日本各地からやってきた縄文・弥生系の人たちが交流しつつ、数多くの水田稲作を進める集落を営んできたという。
土地や水利を巡る争いがあったものの、縄文/弥生系の人たちは交流・混在・共生しながら、水田稲作の社会を築いた関西の先駆け。関西での水田稲作の始まりを解き明かす糸口を提供した口酒井遺跡が、今　都市化の波で忘れ去られようとしている。」
弥生の新しい時代を切り開いたのは「争い」ではなく、「共生」だったことを示す重要な遺跡である。
「心優しき縄文人　日本の心のふるさと」と私はいつも言うのですが、
この口酒井遺跡が示す「縄文人と弥生人の共生についてもその証」といつも頭にありました。

あれから8年　2020年11月　尼崎市立歴史博物館開設に伴い、博物館と一体となった田能遺跡資料館開館50周年記念特別展「田能遺跡の弥生人」が資料館で開催されているのを知りました。
「田能遺跡の弥生人はどのような人たちだったのか？ 周辺の弥生遺跡も含め、人骨や墓にスポットをあてて展示紹介。
弥生の戦さの痕跡が残る勝部遺跡や口酒井遺跡の出土品も展示」という。
ぜひとも　関西での弥生の始まりを示す口酒井遺跡の出土品ならびに縄文/弥生人共生についての研究の進展を知るまたとない機会。
11月15日　8年ぶりに田能遺跡資料館を訪ねるとともに、
周辺の藻川・猪名川土手を歩きました。
この8年　周辺もよく整備され、遺跡のすぐ横の河川敷は素晴らしい散策公園に。
猪名川が流れ出る北摂の山々を背景に広がる素晴らしい秋景色。
昔を思い浮かべながら　心地よい散策できました。
もっとも、口酒井遺跡は住宅や工場の下に埋没。痕跡は地下に。

今回私の一番の興味は籾痕が付いた土器や縄文の特徴を有する口酒井遺跡出土土器の見学と弥生の水田稲作をはじめたという縄文/弥生の人たち共生の村の研究の進展。
平地や海を見晴らす丘など高台に住み続けてきた縄文人たちが、まだ未開の湿地が続く河口近くに下りて生活するインパクトは水田稲作しか考えられないと思いつつ、今回8年を経て　新しい知見が追加されているのか、
興味津々で資料館へ　*2020.11.15.　by Mutsu Nakanishi*

縄文晩期　縄文/弥生の人々が共生して関西で初めて水田稲作を始めた伊丹市口酒井遺跡



上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で。この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

8年前の和鉄の道•Iron Road 2013　「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能•口酒井遺跡を訪ねる」より
https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf

縄文晩期　縄文/弥生の人々が共生して関西で初めて水田稲作を始めた伊丹市口酒井遺跡

草地が広がる口酒井遺跡の現状　Google 2020　7月　ストリートビューより
遺跡内の埋文の建物は取り壊されているが、
遺跡内の状況は2012年訪れた当時時の写真と全く変わらず。

8年前の和鉄の道•Iron Road 2013　「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能•口酒井遺跡を訪ねる」より
https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf

弥生初期　縄文/弥生の人々が共生して水田稲作を営んだ大集　尼崎市田能遺跡

川西池田の奥から流れ出た猪名川　当時田能周辺は広大な河口近くの平地

川西池田の奥から流れ出た猪名川の土手の下に　口酒井遺跡・田能遺跡など
弥生初期　河内からやってきた人たちを主に縄文・弥生の人たちが共生して
水田稲作の暮らしを始めた村があった。関西での水田稲作が始まり、
弥生時代、この地では幾つもの弥生の集落が生まれ、受け継がれていった。

弥生初期　縄文/弥生の人々が共生して水田稲作を営んだ大集　尼崎市田能遺跡

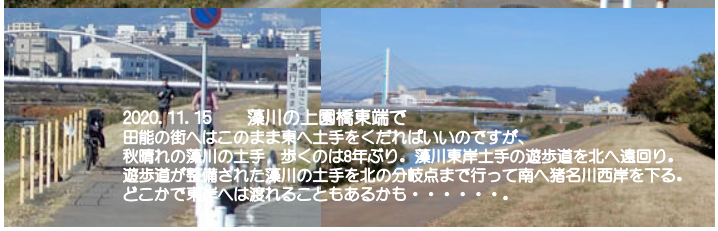
弥生初期　縄文/弥生の人々が共生して水田稲作を営んだ大集　尼崎市田能遺跡

2020. 11. 15　田能資料館の東側の風景　町工場が広が停る　田能6丁目界隈
このphotoの左側　見えぬ左手　猪名川土手に沿って大きな工業用水施設があり
この施設を含め、見えるあたり周辺が田能遺跡である
そして　さらに　その北西側には口酒井遺跡が広がっている

2020. 11. 15　少し北で猪名川本流と分岐した藻川が南へ流れてゆく
猪名寺から田能の街に渡る上園橋西端で

藻川の北側の眺め　猪名川が流れ下ってきた北摂川西池田方面

2020. 11. 15　藻川の南側の眺め　尼崎猪名寺・阪神間の街並
藻川は左へ曲がり、すぐ下でまた猪名川と合流して、神崎川となり大阪湾へ
猪名川は　正確ではありませんが、大阪と兵庫県のほぼ境をなす川です



2020. 11. 15　藻川の上園橋東端で
田能の街へはこのまま東へ土手をくだればいいのですが、
秋晴れの藻川の土手　歩くのは8年ぶり。藻川東岸土手の遊歩道を北へ遠回り。
遊歩道が整備された藻川の土手を北の分岐点まで行って南へ猪名川西岸を下る。
どこかで東岸へは渡れることもあるかも・・・・・・。

2020. 11. 15.　藻川東岸土手から、藻川・猪名川合流点を眺める
北の川西池田北摂の山間を流れ下ってきた猪名川の藻川分岐点周辺
分流点北に架かる斜張橋神津大橋が見える。

2020. 11. 15.　藻川分岐点を南に流れ下る猪名川本流
結局猪名川東岸へ渡る橋はなく、藻川分流点を南に回り込んで、
今度は猪名川西岸を猪名川橋まで下る。

藻川と猪名川に挟まれた中洲にある田能の街をぐるりと回り込んで藻川の上園橋からまっすぐ
田能の街を横切ってきた道の合流点猪名川橋西に出て、猪名川の東岸に渡ることに。
でも　秋晴れの心地よい川岸の散歩道　こんなに景色の良い散歩道が整備されているとは全く
知らず。ラッキーでした。
猪名川橋を渡ると東岸の土手下が目的の田能遺跡・口酒井遺跡である。

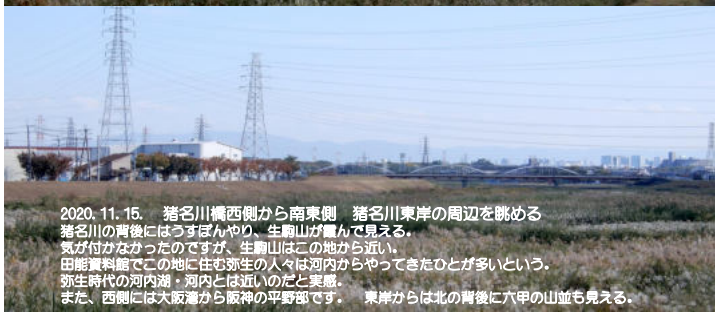
藻川分流点から今度は猪名川本流の西岸を南へ猪名川橋まで下る

藻川と猪名川の中州の北端を回って今度は猪名川に沿って下る。
下流遠くに猪名川橋周辺が見え、随分上流まで歩いたようだ。
だんだんかつて歩いた記憶も戻ってくる。
遠望する猪名川橋南の土手下に見える建物群
豊中・伊丹・尼崎三市共同工業用水配水場施設の一角が田能遺跡。

猪名川東岸には数多くの送電鉄塔と土手に沿って住宅や工場の建物が建て並ぶ。
手多くの送電鉄塔を結ぶ変電所の隣が口酒井遺跡なのですが、ここからは見えない。

藻川の土手もそうでしたが、猪名川・藻川が作る中洲
北端である分流点から下流の猪名川西岸も遮るもののない散歩道
ジョギングや散歩する人たちも多く心地よい

2020. 11. 15.　藻川との分流点から南に流れ下る猪名川本流
・藻川分流点　猪名川西岸土手より下流側の猪名川橋遠望



2020. 11. 15.　猪名川橋西側から南東側　猪名川東岸の周辺を眺める
猪名川の背後にはうすぼんやり、生駒山が霞んで見える。
気が付かなかったのですが、生駒山はこの地から近い。
田能資料館でこの地に住む弥生の人々は河内からやってきたひとが多いという。
弥生時代の河内湖・河内とは近いのだと実感。
また、西側には大阪湾から阪神の平野部です。　東岸からは北の背後に六甲の山並も見える。

2020. 11. 15.　猪名川東岸の猪名川橋から上流側遠望
この上園橋を渡れば　左土手下が口酒井　右土手下が田能6の街
工場建物が立ち並ぶ街の一角にそれぞれ口酒井遺跡・田能遺跡が眠る
橋の土手下一体に大きな尼崎の敷地園田配水場があり、この地下一帯が田能遺跡で、
南端一角木々に包まれ、田能資料館と一部竪穴住居などが復元整備されている。

2020. 11. 15.　猪名川橋東岸は車道で　北西側の川向うに遠く六甲の山並が見える。
かつての猪名川河口域では前面に大阪湾　そして広大な平地の周りをぐるりと
六甲・北摂の山並・河内湖の背後に生駒山が取り囲み、
四方から多くの弥生の人たちがこの広大な平地に向かってやってきたことが実感される。

2020. 11. 15.　猪名川橋東岸に見える森周辺が田能遺跡（田能遺跡の南端部分一部復元部分）
森の北端に田能資料館の建物が見える。

2020. 11. 15.　猪名川橋東岸は広い幹線道路　遊歩道が道に沿って整備されている。
南へ　園田配水場を眺めながら少し歩くと田能資料館です。
ふと　足元をみると歩道を横切る排水溝の鉄カバーが弥生銅鐸の図柄に。

田能遺跡へ向かう散策歩道を横切る溝の鉄製カバーのデザインは
弥生銅鐸に描かれた農耕の絵がかかれていて、
弥生の大集落田能遺跡への道のモニュメント

2020. 11. 15.　猪名川橋の南側　土手下に沿って、発掘調査後、跡地に建設された
三市共同工業用水園田配水場と隣に田能資料館と一部復元保存された田能遺跡がある

土手の車道沿い三市共同工業用水園田配水場入口

2020. 11. 15.　猪名川の土手に沿って南に田能資料館の入口

2020. 11. 15. 猪名川橋の南土手下の田能遺跡の一角にある田能資料館入口。

2020. 11. 15.　資料館に隣接して　弥生の大集落　田能遺跡の一部を復元保存

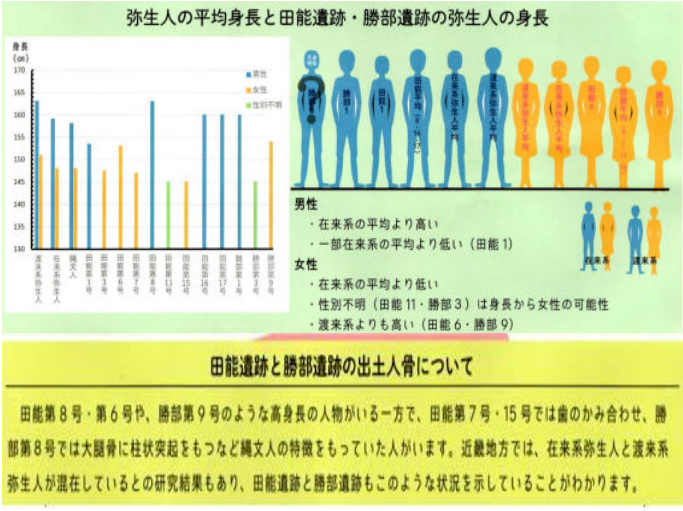
2020.11.15　田能資料館の東側の風景　町工場が広がり停る　田能6丁目界隈

このphotoの左側見えていぬ左に大きな工業用水施設があり、この施設を含め、
周辺が田能遺跡である　そして　さらにその北西側の口酒井の街中に
口酒井遺跡が眠っている。

特別展は田能遺跡と共に周辺に存在した弥生の集落遺跡　勝部遺跡・原田西遺跡・口酒井遺跡の墓と墓に埋葬されている人骨にスポットをあて、どんな弥生人が暮らしていか?を探る展示。
各遺跡の縄文・弥生系の弥生人の人骨調査から、縄文・渡来弥生系弥生人が混在して暮らしていた様子を明らかに。

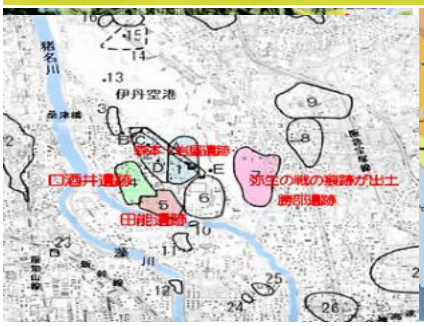
私が期待していた縄文晩期(弥生早期)の水田稲作開始の状況ではなく、
主に田能遺跡が存在した弥生前期・中期の状況の展示。
このかつての猪名川河口に近い平地で縄文・渡来弥生系の人々が暮らし、この地で早くから、縄文・渡来系の人々が共生して水田稲作を始めたことを示唆する展示。
また一つ「心優しき日本　縄文・弥生人共生」の証でした。

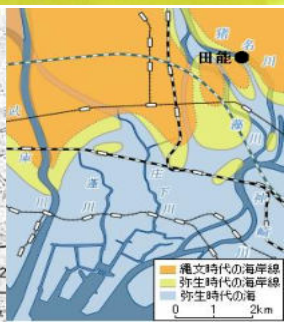
特別展の内容は小冊子に展示内容がそのまま写真記録されていたので、各遺跡の人骨調査結果のみを転載。特別展小冊子をPdf資料にして添付。紹介に代えさせていただきました。
■【PDF転載】田能資料館開館50周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子2020.11月
https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanoiseki.pdf



各遺跡のまとめ

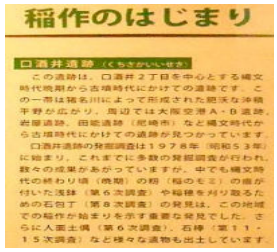
田能遺跡…渡来系と在来系が混在していました。大規模な埋葬施設と豪華な装飾品を身に着けた人物がいました。
勝部遺跡…渡来系と在来系が混在していました。争いの犠牲者の墓があります。
原田西遺跡…方形周溝墓に供えた土器には古い文様のみで装飾された土器が長い間使われていました。これは田能遺跡、口酒井遺跡とは異なります。方形周溝墓には陸橋があります。
口酒井遺跡…周辺遺跡で唯一、円形周溝墓が見つかっており、弥生時代の葬送儀礼の一端がわかります。





縄文晩期　口酒井遺跡出土土器　伊丹市教育委員会蔵

壺型土器　縄文晩期
凸帯紋深鉢土器　縄文晩期
波状口縁になっている深鉢型土器　縄文晩期
右手前　羽圧痕が付いた浅鉢形土器　縄文晩期



稲作のはじまり

口酒井遺跡（くちさかいいせき）

この遺跡は、口酒井２丁目を中心とする縄文時代晩期から古墳時代にかけての遺跡です。この一帯は猪名川によって形成された肥沃な沖積平野が広がり、周辺では大阪空港A・B遺跡、岩屋遺跡、田能遺跡（尼崎市）など縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が見つかっています。口酒井遺跡の発掘調査は１９７８年（昭和５３年）に始まり、これまでに多数の発掘調査が行われ、数々の成果があがっていますが、中でも縄文時代の終わり頃（晩期）の粉（稲のモミ）の痕が付いた浅鉢（第６次調査）や稲穂を刈り取るための石包丁（第８次調査）の発見は、この地域での稲作が始まりを示す重要な発見でした。さらに人面土偶（第６次調査）、石棒（第１１・１５次調査）など様々な遺物も出土しています。

インターネットより
伊丹博物館　常設展示
http://inoues.net/club8/itami_museum.html

資料館の前からは猪名川の向こうに六甲連山全体が見えている
左:須磨から正面:六甲山上　右:宝塚まで
こんなにバランスよく全山が見えているのにびっくりしました

2020. 11. 15.　資料館の横から土手に上がる　猪名川の土手から眺める上流
北西　武庫川の下り口　宝塚方面が見えている

2020. 11. 15.　猪名川の土手南の景色　南東方向になる

2020. 11. 15.　猪名川の土手　南の方向に　園田競馬場が見える

2020. 11. 15. 猪名川土手を土手を猪名川橋まで戻り、
猪名川橋を西に渡って、田能の街に出てバスで阪急園田から帰る

田能の資料館まで歩いた猪名川西岸の散歩道の向こうに六甲連山
反対方向には生駒山　　弥生の時代には広大な平地の真ん中にいる感覚だった。
この地に古くから弥生人が住み着いた理由が解ったような気になりました

私はいつも「心優しき縄文人　日本の心のふるさと」と言うのですが、
口酒井遺跡や田能遺跡などかつての猪名川河口周辺の弥生遺跡が示す
「縄文人と弥生人の共生もその証」
久し振りにかつての猪名川河口近くの藻川・猪名川周辺を歩き、また、田能資料館特別展「田能遺跡の弥生人」展でそれが確認できました。
いつも頭にありながら、情報が得られなかった弥生人と縄文人の共生を考え、教えてもらえた、れしい一日でした。

コロナ禍が世界的に広がる中　ますます日本・世界とも暮らしは厳しく、自己中心的な「分断・差別・格差」に向かっている。でも人類が幾多の困難を乗り越えて今の繁栄を築くことができたのは人類だけが持つ「相手を思いやる心」だといい、人類の歴史がそれを示している。
決して二者選択の選別・分断・競争などの力ではなかった。

「相手を思いやる心」の発露が「心のやさしさ」「共生・平和」だと。
約8000年の長きにわたる持続社会を作り上げた日本の縄文もその証。
「心のやさしさ」「相手を思いやる心」が作る平和な暮らしを願う昨今です。
それにもう一つ水田稲作の始まりの「縄文人と弥生人の共生」が加わった。
いま、頂点同調圧力の中　考えることを放棄するような
短絡的AI・デジタル化をうたう欺瞞一杯の情報化社会の流れ。

コロナ禍がもたらした新しい時代の生き方をそれぞれが考える一助になればと
また、コロナ禍の中での近隣walk　西神戸にいる私の足は山や近隣の里に向く毎日。
今回、秋晴れの川在の散歩道　解放感一杯　すがすがしい。
うれしい一日を思い浮かべながら、阪急園田駅へのバスに揺られている。

2020.11.15. 夕暮れ　久し振りの市バスも心地良く　バスに揺られて
Mutsu Nakanishi

伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪　2020. 11. 15.
久しぶりに周辺の猪名川・藻川walk
R0211tanowalk00.htm by Mutsu Nakanishi

1. 8年前の和鉄の道・Iron Road 2013
「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」
https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf
今回のwalkのoutline 田能遺跡・口酒井遺跡の概要はこの資料で
2. 【PDF転載】
田能資料館開館50周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子2020. 11月
https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanotokubetsuten.pdf
3. 【スライド動画】伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪　2020. 11. 15.
久しぶりに周辺の猪名川・藻川walk
https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalk.mp4
4. 【Photo Album】
https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalkphoto.pdf
5. 【web file】伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪　2020. 11. 15.
久しぶりに周辺の猪名川・藻川walk
https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalkweb.pdf

2.「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」

猪名川東岸と伊丹空港にはさまれた猪名川の河口域　　2012. 12. 21.

弥生時代の初め、数多くの集落があり、縄文系の人達との交流があったという

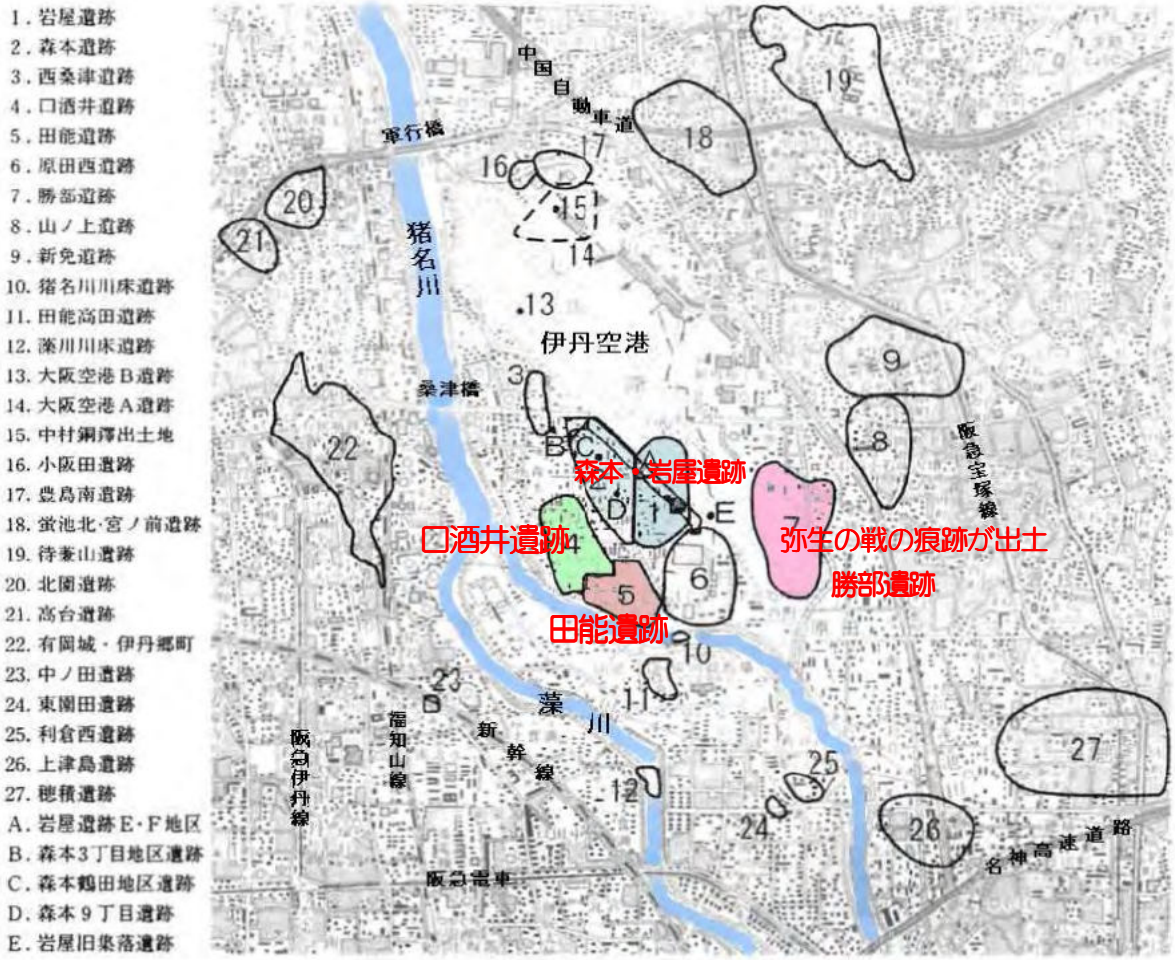


図1　岩屋遺跡と周辺の弥生時代の遺跡（S＝1/50,000）

昨年の 12 月　尼崎・伊丹・豊中の境界部にある伊丹空港。この空港と西側の猪名川に挟まれた狭い地域には　かつて、縄文晩期から弥生時代にかけて数多くの集落があり、日本各地からやってきた縄文・弥生系の人達が交流したという。

土地・水利をめぐる弥生の戦はあったが、縄文／弥生系の人達は交流・混在・融合しながら、水田耕作の弥生社会を作り上げたという。こんなことを解き明かす糸口を提供した口酒井遺跡が今都市化の波の中で忘れ去られようとしている。

田能遺跡で「弥生の鉄」の展覧会があるのを機会に　この田能遺跡とすぐ近く口酒井遺跡を訪ねました。

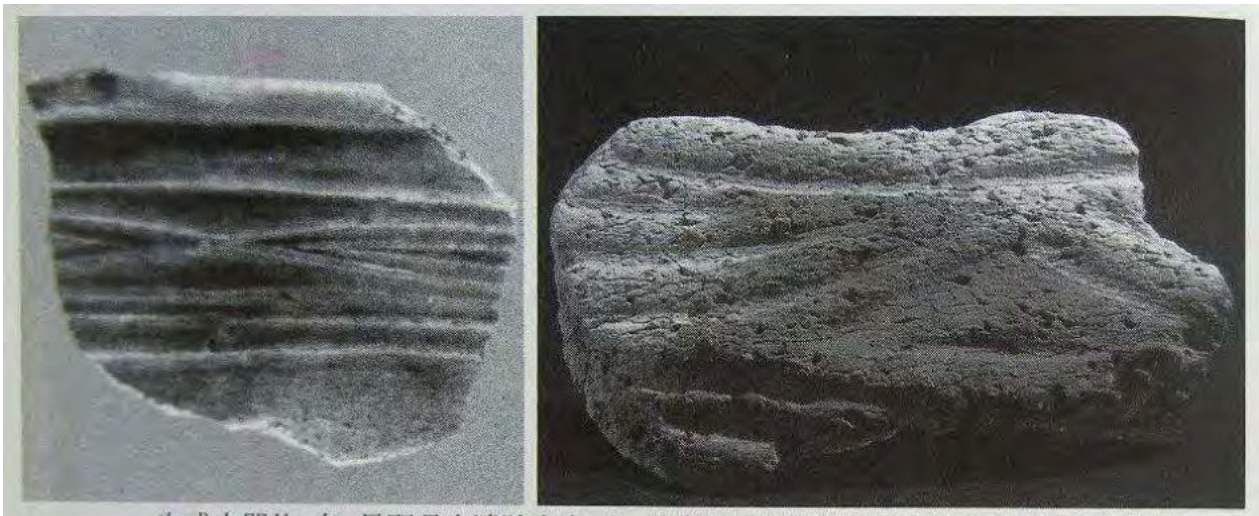
「鉄」を考えるとき、いつも頭の片隅をかすめる「弥生の戦」

「森の民縄文人は水田耕作の弥生人によって追い払われたのか???」

平和な時代縄文から弥生の時代へ　「弥生の戦は鉄が日本に持ち込まれた為なのか???」

「各地で弥生の戦は起こったが、弥生人と縄文人が対峙し、戦った」という構図はなく、むしろ集落に、飛び込んできた縄文系　弥生系の人達と一緒に生活し、それぞれの文化・技術を融合して行ったという。

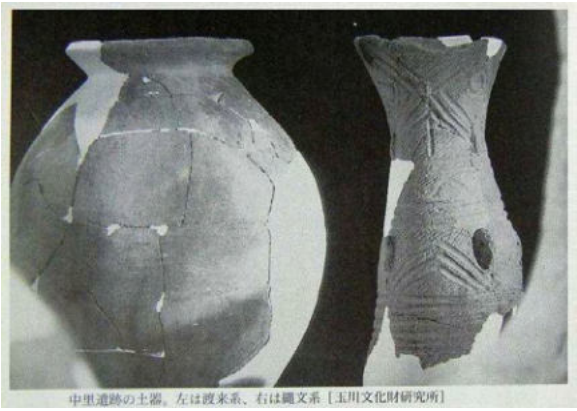
NHK 出版「日本人はるかな旅　第５巻　そして”日本人が生まれた”」によれば、
弥生早期頃、東日本の縄文系の人達がたこの大阪湾沿岸のこの地にやってきて、在来の人達と一緒に生活していたことを初めて解き明かしたのが、口酒井遺跡集落だという。



氷式土器片。左・長野県氷遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土［伊丹市教育委員会］

縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡　口酒井遺跡。約２千３百年前（弥生前期）

上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。



中里遺跡の土器。左は渡来系、右は縄文系［玉川文化財研究所］

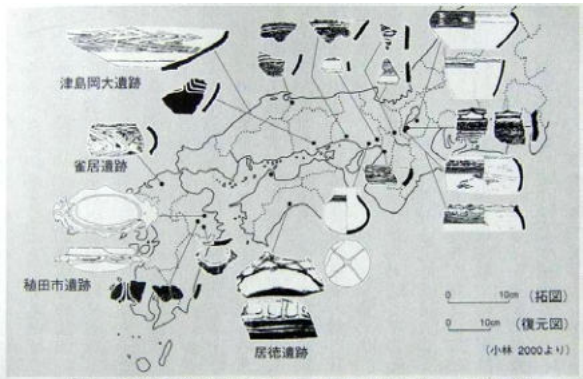


図７　東日本の縄文土器の西方への展開（紀元前４－３世紀頃）

そんな　縄文と弥生の人達の交流・文化融合を始めて解き明かしたのが、口酒井遺跡だという。
このような縄文系・弥生系の人達の融合による日本人の形成については日本人の DNA 分析からも明らかになっている。

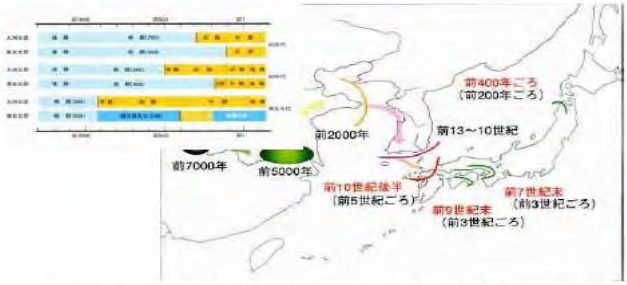
口酒井遺跡は私には重要な遺跡に見えるのですが、阪神間にいてもこの遺跡の場所を知る人は少なく、忘れかけられている。
私も伊丹空港の西側の猪名川周辺と聞くだけでよく判りませんでした。
田能遺跡には立派な資料館があるので、今回　資料館で教えてもらって現地に行ってこようと。

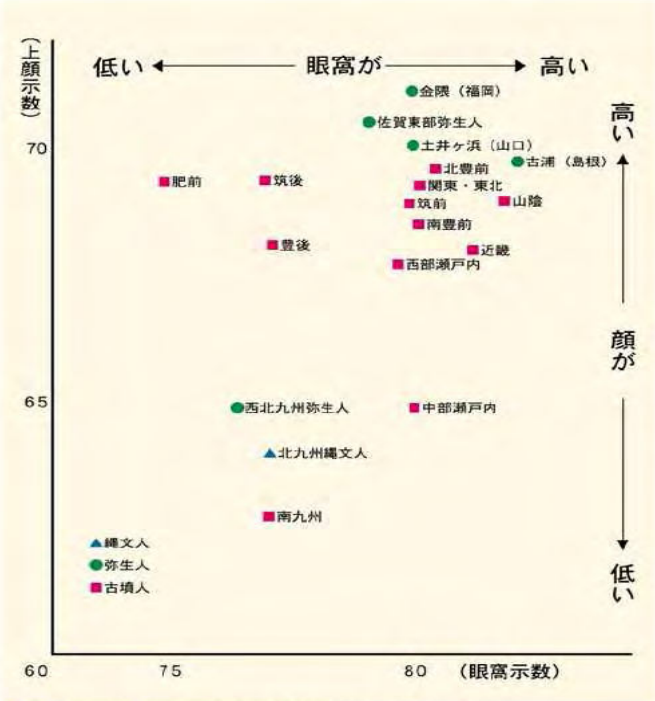
● 縄文人と弥生人の融合　和鉄の道　2006.10 月　弥生の高地性集落に「弥生の戦さ」・「日本人のルーツをさがして」より

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf

1. 混 血 の 進 行

渡来的形質とされる顔の高さ、眼窩の高さ、梨状孔（鼻の部分の孔）の細長さを示す示数を軸にとって古墳人をみてみると、梨状孔は九州内では筑前から離れるほど横広になり、本州では北部九州と近畿・山陰を細長さの二つのピークとして中部瀬戸内が谷間のようになっているのがわかる。
また、関東・東北も同様な値であり、近畿からの流れで理解できる。
ところが、顔の高さは、九州内では南九州を除くとそう大差はない。
しかし、本州では梨状孔と同じく北部九州と近畿・山陰をピークとして中部瀬戸内が谷間のように低い。
逆に、眼窩の高さをみると、九州内では筑前と他の地域に差があり、本州では山陰・近畿が高い値を示すものの大差はない。
また、関東・東北の古墳人は顔の高さも眼窩も高い値を示しており、北部九州の弥生人・古墳人とほぼ同じである点は注目される。

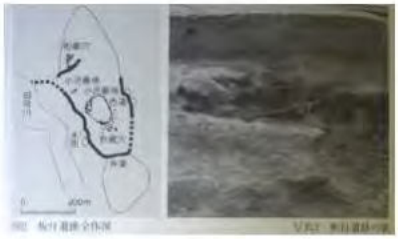




日本列島における稲作・弥生文化の東進　　歴博藤尾らによって　最近の年代測定により弥生時代は 500 年遡ると提案
黒字はその新年代提案　　従来の縄文晩期後半を弥生時代　早期と呼ばれることが多くなっている。

● 弥生の遠賀川式土器と縄文土器の共存

板付遺跡などを含め、福岡県　遠賀川下流域は弥生農耕文化発祥地のひとつに挙げられています。北部九州で始まった農耕文化は東日本に伝播して行きますが、農耕文化と共に遠賀川式土器も東進し、農耕開始期の指標とされています。一方　東国の縄文土器が西日本各地で見られる。
これは、東の縄文人が積極的に西日本の渡来系弥生集落で共存し、農耕文化を習得していった証と見られている。



このような事象から縄文人と弥生人が同じ地域の中で共存・融合しながら、水田稲作を中心とする弥生の文化が花開く。
それが　さらには　新しい耕地・水利をめぐる集落間・地域間の争いをめぐって、集落内での地位格差　地域・集落間の格差を生み、争いに備える体制　環濠集落・高地性集落そして国へと発展していったと考えられている。

● 尼崎市田能遺跡　近畿の弥生時代ほぼ全期間に及ぶ大集落跡で九州北部特有の甕・壺棺墓 4 基出現

田能遺跡は、尼崎市の東北端、標高 7m、猪名川左岸に営まれた弥生時代（2300-1700 年前）の集落跡です。遺跡は東西約 110m、南北 120m 以上の広さがあります。弥生時代は我が国で稲作農耕が始まった時代で、田能の弥生人たちも川沿いのやや高いところに溝をめぐらし、住居を造り、低湿地で水田をつくったようです。遺跡は長期間にわたり生活の 場となったため、家の柱穴、ゴミ捨て穴、貯蔵の穴、排水の溝など多数の遺構がありました。人々の生活した竪穴住居も３棟が明らかになっています。また、ここは墓地としてもつかわれ 、木棺墓８基、土こう墓５基、壺・甕棺墓４基が発見されました。
遺跡の発掘は昭和 40 年の工業用水道の配水建設現場から、大量の弥生式土器が発見された事にはじまる。その後約１年間にわたる調査の結果、弥生時代前期から古墳時代中期にわたる大集落跡であることが確認された。この遺跡でもっとも注目される遺構は、墓と、それに伴う埋葬の状況であった。それまで近畿地方では、弥生時代の墓の発見例は少なく、その実体はほとんど不明のままであった。ここでは、木棺墓８、土こう墓５、壺棺墓３、甕棺墓１の計１７基の墓が発見された。うち１５基は１つのグループに、残り２基はそれらとは離れた場所に埋葬されていた。調査の結果、壺・甕を棺に利用した壺棺・甕棺墓、遺骸の埋葬可能な程度に掘り窪めた土こう墓、厚い板を組み合わせた木棺墓の３種類の埋葬方法が明らかになった。残存した人骨によって、壺・甕が子供や乳幼児の埋葬に用いられたこと、土こう墓には木の蓋が存在していたこと、木棺には高野槙か中国産の木が使用されていたことなどが確認されている。
木棺墓に埋葬されていた男性のうち２体には、 623 個以上の碧玉製管玉を装着した遺体と、左腕に白銅製釧（くしろ：腕）をした遺体も発見された。上半身には朱が施されており、この２基だけが明らかに特別扱いされている。ムラの首長クラスだった事をうかがわせる。
これらの埋葬方法のうち、特に壺棺・甕棺などは当時北九州で盛んに用いられた埋葬方式である。
言い換えると　この田能遺跡が弥生時代の初期から機能していたことを考えると「縄文系弥生人の集落が渡来系弥生人の農耕を学び　九州からやって来た渡来系弥生人と融合しつつ　この集落を弥生の中心集落に発展させていった」田能遺跡の弥生の墓群は縄文系弥生人と渡来系弥生人融合を示すモニュメントであるかもしれない。

1.　大阪湾の海岸部　猪名川河口周辺　弥生の大集落　田能遺跡　へ

田能遺跡は尼崎市の北東端、尼崎市田能字中ノ坪（現在の田能 6 丁目）　猪名川左岸に接する標高約６ｍの沖積平野にあり、昭和 40 年 9 月尼崎・西宮・伊丹三市共同の工業用水配水場の工事現場で大量の土器が発見されたことがきっかけとなり、その後１年間にわたり発掘調査が行われ、弥生時代の全期間にわたる大集落跡で、国の史跡に指定されている。

　　住居のほかそれまで不明であった近畿地方弥生時代の墓制を明らかにした木棺墓、土壙墓、壺・甕棺墓などの墓が発見。木棺墓の中には碧玉製管玉の首飾りや白銅製の腕輪を身につけた特別な扱いをうけていたと思われる人物の墓がありました。発掘された遺構は地下に保存された後、全面に土盛りし植栽を施し、屋外には住居や高床倉庫などを復元し、出土した資料は資料館で公開している。

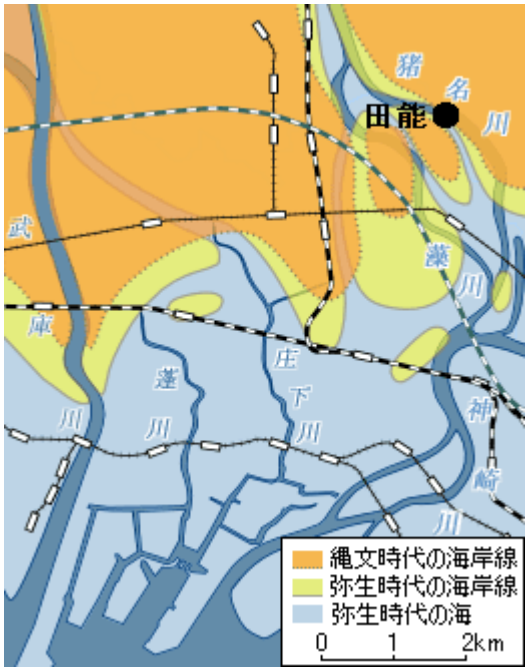
尼崎が故郷の私には、当時　センセーショナルに発掘が伝えられたのを覚えている。
もっとも、田能遺跡が尼崎の北東端で　伊丹・豊中・尼崎の境で尼崎の交通網から外れて便利が悪く、園田の競馬場の北側と認識。市バスが通っているのですが、本数も少なく見学に行ったのは随分後である。
今回もやっぱり自分の良く知った道　阪急塚口駅から市バスに乗って、園田競馬場横の田能口で下車して　田能の集落を北にぬけて、猪名川の土手に出て、対岸へ渡れば田能遺跡である。
　この道しか知らなかったのですが、猪名川の土手に立って北を見ると川の北西岸に福知山線伊丹駅周辺のショッピングセンターが見える。最近　伊丹に住む娘一家を訪ねて伊丹周辺の事情がわかってき手、これだったら福知山線の猪名寺駅や伊丹駅から行った方がはるかに便利。　バスの便を考えると帰りは伊丹から帰りました。

猪名川の西岸猪名川橋周辺から東岸口酒井地区　工業用水配水場・田能遺跡を眺める　　2012. 12. 21.
東岸の工場・住宅群の中に口酒井遺跡・田能遺跡　これらの後ろが伊丹空港である
猪名川の東岸に沿う共同工業用水排水場と田能遺跡資料館の森までが田能遺跡

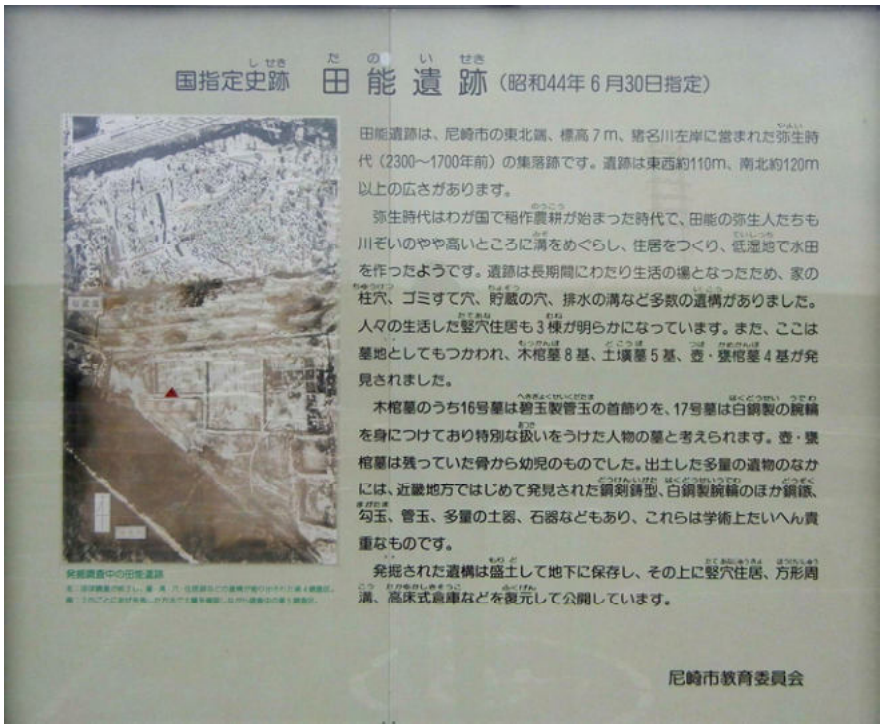
このあたりは、弥生時代には　猪名川・淀川が注ぎこむ大阪湾の海岸近くの平野部で、この周辺には数多くの弥生の集落があった。　岸に立って東を眺めると　ひっきりなしに伊丹空港から北へ飛び立ってゆく飛行機が見える。

猪名川　上流側　伊丹の市街地が見えている　　猪名川の下流側　尼崎園田地区

猪名川東岸　田能遺跡横からの風景　今は海岸がはるか南で　周辺がかつて海岸近くとは思えない　2012. 12. 21.



弥生の大集落　田能遺跡



国指定史跡　田能遺跡（昭和44年6月30日指定）

田能遺跡は、尼崎市の東北端、標高7m、猪名川左岸に営まれた弥生時代（2300～1700年前）の集落跡です。遺跡は東西約110m、南北約120m以上の広さがあります。

弥生時代はわが国で稲作農耕が始まった時代で、田能の弥生人たちも川ぞいのやや高いところに溝をめぐらし、住居をつくり、低湿地で水田を作ったようです。遺跡は長期間にわたり生活の場となったため、家の柱穴、ゴミすて穴、貯蔵の穴、排水の溝など多数の遺構がありました。人々の生活した竪穴住居も3棟が明らかになっています。また、ここは墓地としてもつかわれ、木棺墓8基、土壙墓5基、壺・甕棺墓4基が発見されました。

木棺墓のうち16号墓は碧玉製管玉の首飾りを、17号墓は白銅製の腕輪を身につけており特別な扱いをうけた人物の墓と考えられます。壺・甕棺墓は残っていた骨から幼児のものでした。出土した多量の遺物のなかには、近畿地方ではじめて発見された銅剣鋳型、白銅製腕輪のほか銅鈴、勾玉、管玉、多量の土器、石器などもあり、これらは学術上たいへん貴重なものです。

発掘された遺構は盛土して地下に保存し、その上に竪穴住居、方形周溝、高床式倉庫などを復元して公開しています。

尼崎市教育委員会

田能遺跡資料館の門を入ると　資料館の前から南側に田能遺跡の竪穴住居などが復元した公園として整備されていました。発掘された遺構はそのまま埋め戻して保存し、その上に盛土して竪穴住居・方形集溝・高床敷き倉庫などを復元展示されている。　それにしても　この遺跡が出土した頃の報道・熱気からすると復元地が非常にせまいなぁ・・・と。

入口にあった案内板によると田能遺跡資料館が建っている北側の工業用水ポンプ場が建っている場所全体も田能遺跡の発掘調査された場所であると知れる。やっぱり　田能遺跡全体の広さを眺めるには　猪名川の土手に登って眺めないと全体が見えない。また、google 写真から鳥瞰するのが、一番かも知れぬ。

田能遺跡資料館の北側　猪名川沿いの工業用水配水場　ここも全体が田能遺跡の一部である　2012.12.21.

2. 田能遺跡資料館「弥生の鉄　石器から鉄器へ」展示

縄文時代から弥生時代への大きな変化として、本格的な米づくりの開始と青銅器や鉄器などの金属器が伝わったことが挙げられる。特に、鉄器が伝わる前は石の道具≪石器≫が使われていましたが、鉄の堅くて切れ味が鋭いという利点から、次第に石器から鉄器へと移り変わっていったと考えられている。今回の展示では、弥生時代の近畿地方において、どのような種類の鉄器があり、どのようにつくられ、どのように使われていたのかを紹介。現在では欠かせないものとなった鉄が、日本に伝わったころの様子に迫る。

「弥生の鉄　石器から鉄器へ」パンフレットより

第42回尼崎市立田能資料館特別展

弥生の鉄

―石器から鉄器へ―

星丘遺跡鉄器及び鉄片（左）と鉄器づくりに使用した可能性のある石器（右）
所　　蔵：枚方市教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪展示構成≫

1　五斗長垣内遺跡と弥生時代の鉄器生産遺構

鉄器の生産には、とても高度な技術が必要でした。そのため、弥生時代の近畿地方では、鉄器づくりをおこなえたムラは少なかったと考えられています。このようなムラの１つで、近年発見され、このたび国の史跡に指定される見通しとなった兵庫県淡路市・五斗長垣内遺跡を中心に、近畿地方の鉄器生産の遺構について紹介し、金属が伝わったころの鉄器づくりをひもときます。

2　鉄器の登場

兵庫県内の、確実な例としては最古級の鉄器である、神戸市新方遺跡の鋳造鉄斧片（弥生時代中期中ごろ）などを紹介し、いつごろ近畿地方に鉄器が伝わったかを紹介します。

3　さまざまな鉄器

弥生時代の鉄器は、鉄鏃を除けば、鉄斧や鉄鉋などの工具として一般に広まっていったと考えられています。弥生時代のさまざまな鉄器と、その使い方について解説します。

4　鉄器のつくり方

弥生時代の近畿地方の鉄器生産は、まだ未成熟なものでした。つくり方のわかる鉄器などから、近畿地方を中心とした鉄器づくりの方法を紹介します。

5　見えざる鉄器について

弥生時代後期には多くの鉄器が存在していましたが、溶かして再利用されたり腐蝕によって多くが失われたりしたため鉄器が見つからないという説が、いわゆる「見えざる鉄器」論です。弥生時代後期の遺跡から石器がほとんど見つからないことも、鉄器が普及した証拠の１つとされてきました。

弥生時代後期には近畿地方にどのくらい鉄器が広まっていたのでしょうか。尼崎の石器から考えます。

雲井遺跡鉄鉋
所　　蔵：神戸市教育委員会
写真提供：　　同　上

亀井遺跡鉄鏃
所　　蔵：（公財）大阪府文化財センター
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪主な展示品≫

- 兵庫県五斗長垣内遺跡 鉄器 鉄片 石器（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県内場山墳丘墓 袋状鉄斧 鉄鉋（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県半田山１号墳丘墓 鉄剣（兵庫県指定文化財）
- 大阪府星丘遺跡 鉄器 鉄片 石器
- 大阪府鬼虎川遺跡 鉄鏃 鉄鑿（大阪府指定文化財）
- 大阪府古曽部・芝谷遺跡 板状鉄斧 鉄鉋 刀子
- 兵庫県奈カリ与遺跡 板状鉄斧 鉄鏃
- 兵庫県雲井遺跡 鉄鉋
- 兵庫県新方遺跡 鋳造鉄斧片
- 大阪府亀井遺跡 鉄鏃 板状鉄斧 鉄鑿
- 大阪府崇禅寺遺跡素環頭大刀片

その他約 300 点を展示

崇禅寺遺跡素環頭大刀片
所　　蔵：大阪府教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

ゆう

テーマ１　五斗長垣内遺跡と弥生時代の鉄器生産遺構

- **板状鉄斧レプリカ**／五斗長垣内遺跡／弥生時代後期
- **鉄器および鉄片**／五斗長垣内遺跡／弥生時代後期
- **石製工具**／五斗長垣内遺跡／弥生時代後期
- **鉄器および鉄片**／星丘遺跡／弥生時代後期
- **石製工具**／星丘遺跡／弥生時代後期／

テーマ２　鉄器の登場

- **鋳造鉄斧片**／新方遺跡／弥生時代中期中ごろ
- **鉄鏃**／居住・小山遺跡／弥生時代中期中ごろ
- **鉄やりがんな**／戎町遺跡／弥生時代中期中ごろ

テーマ３　さまざまな鉄器

- **鉄鏃**／奈カリ与遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄鏃**／表山遺跡／弥生時代中期末～後期前半
- **板状鉄斧**（兵庫県指定文化財）／有鼻遺跡／弥生時代中期後半
- **板状鉄斧**／古曽部・芝谷遺跡／弥生時代後期前半
- **袋状鉄斧**／亀井遺跡／弥生時代後期後半
- **袋状鉄斧**（兵庫県指定文化財）／内場山遺跡／弥生時代終末期
- **鉄やりがんな**／雲井遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄やりがんな**／芝花弥生墓群／弥生時代後期前半
- **鉄鑿**／七日市遺跡／弥生時代後期
- **鉄鑿**／亀井遺跡／弥生時代後期後半
- **鉄製刀子**／古曽部・芝谷遺跡／弥生時代後期前半
- **鉄製刀子レプリカ**／田辺天神山遺跡／弥生時代後期後半
- **鉄剣レプリカ**／有鼻遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄剣**（兵庫県指定文化財）／半田山１号墳丘墓／弥生時代後期
- **素環頭大刀片**／崇禅寺遺跡／弥生時代終末期～古墳時代初頭

テーマ４　鉄器のつくり方

- **板状鉄斧**／瓜生堂遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄鏃**／鬼虎川遺跡／弥生時代中期前半～中ごろ
- **鉄のみ**／鬼虎川遺跡／弥生時代中期前半~中後ろ

・テーマ５　見えざる鉄器について

- **弥生時代前期の石器**／上ノ島遺跡
- **弥生時代中期の石器**／武庫庄遺跡
- **弥生時代後期の太型蛤刃石斧**／中ノ田遺跡

田能遺跡資料館の「弥生の鉄　石器から鉄器へ」展では、兵庫県や大阪の大阪湾周辺の弥生の集落遺跡から出土した実用鉄器が数多く展示されていました。　鉄器の展示というとすぐに古墳から出土する威信材　武器・武具が中心になるのですが、古墳時代前の弥生時代　実際に使われた実用鉄器が数多く並べられていて、その使い方や鉄器技術の進歩などが丁寧に解説されていた。　展示の目玉は国内最大級の鍛冶工房村　淡路島五斗長垣内遺跡から出土した鉄器　兵庫県で一番古い鉄器　神戸新方遺跡の鋳造鉄斧や高地性集落　神戸表山遺跡野鉄鏃　そして尼崎　上ノ島遺跡や武庫庄遺跡の石器も。

尼崎の鉄器というと古墳時代　畿内の鍛冶工房群のさきがけとなった若王寺遺跡があるのですが、
古墳時代の遺跡のため、展示がありませんでした。
また、芦屋の高地性集落会下山遺跡は最近の発掘で大規模な鍛冶工房があったといわれていますが、
まだ　評価が確立していないのか　展示がありませんでした。

また、「幻の鉄器」の時代と呼ばれる弥生時代の後期　大阪湾周辺では石器の出土が急激に減少し、鉄器の普及が進んだといわれるのですが、なぜか鉄器の出土がなく「幻の鉄器」の時代と呼ばれる。

この「幻の鉄器」の存在については　研究者によって意見が分かれているのですが、
本展示では「鉄器は普及したが、貴重品として再利用されたか、土の中で腐食してなくなったために
出土しない」との考えにもとづく展示がなされていました。

この件について　私は「幻の鉄器」の存在には疑問を持っているのですが、実用鉄器の普及してゆくプロセス・鍛冶技術の進歩や大陸・朝鮮半島との交流など　次の古墳時代への時代アプローチとして重要な課題を提供。

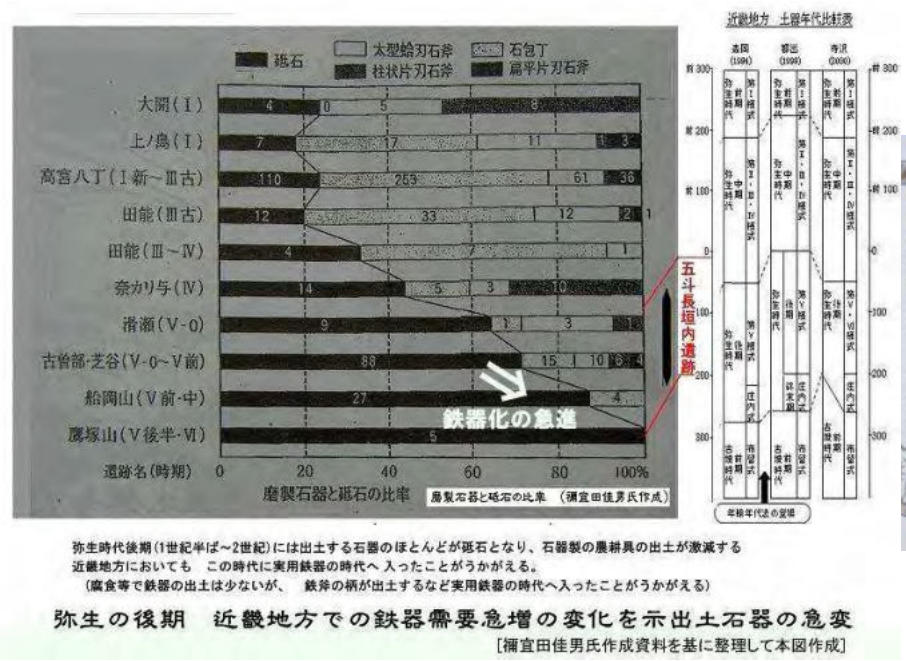
兵庫県暦博のシンポ　五斗長垣内遺跡出のシンポでも話題になりましたが、今回の展示でも　その根拠について　新しい論拠は示されていませんでしたが、重要なテーマであろう。

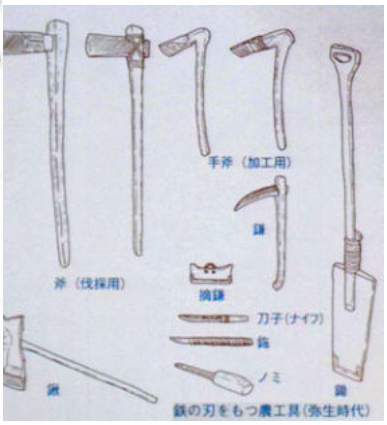
【参考】和鉄の道　2011

近畿 弥生時代後期　淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の２・３世紀

「鉄器は出土しないが、急速な鉄器化が進行したという「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符

http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1103iron00.htm





鉄の刃を持つ農耕具の一例

「鉄器は腐食で土に帰ってゆくため出土しないが、鉄器の木製の柄が多数出土する　」
「石器出土数に対する砥石数が急速増加。石器が減少し、鉄器の研磨が急速増加したことが推定される　」との考え方

兵庫県・大阪湾沿岸の弥生時代の実用鉄器を集めた展覧会　小さな特別展でしたが、数多くの実用鉄器に出会えて　ラッキーでした。　また、この弥生時代の鉄器の展開にこの猪名川の川岸に存在した弥生遺跡群の役割が　加えられればもっと良かったのになぁ・・・と。

3.　東日本の縄文系の人が一緒に暮らしていた弥生の集落　口酒井遺跡　約２千３百年前(弥生前期)。

縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡

田能遺跡資料館で「口酒井遺跡」へ行きたいのですが、位置を教えてくださいと訪ねると「この田能遺跡のすぐ、北側の工場街の中で、確か伊丹の埋蔵文化財センターの分室が建っているはず。行ったことがないので、正確な位置はわからぬ」と色々電話をかけていただいた。

「重要な弥生遺跡で国の史跡の指定を受け、史跡公園にすると聞いているが、動いた形跡はないなぁ」とも。

電話で伊丹市に場所を聞いていただいたり、色々してもらったのですが、「目標がないので　教え方難しい」と。「この資料館のすぐ北東のところで、案内板も何もないが、埋文センターの建物がある」と教えていただいて、すぐそこなので　一筋ずつ調べてもすぐ行けると歩き出す。

田能遺跡の横　猪名川の土手から　北摂の山並を眺める　左端が宝塚　　2012.12.21.

猪名川の土手を北へ　　橋の向こうに JR 伊丹駅のショッピングセンターが見え、ここからだと伊丹駅へ出るのが一番便利が良いと知れる。　土手から東側に広がる口酒井地区の工場街へ入ってゆく道を探しながら歩き出す。　かつては猪名川東岸の荒地だったのでしょうが、北端に口酒井の集落・住宅地があり、その手前には小さく区分けされて、町工場がびっしり詰まっている。

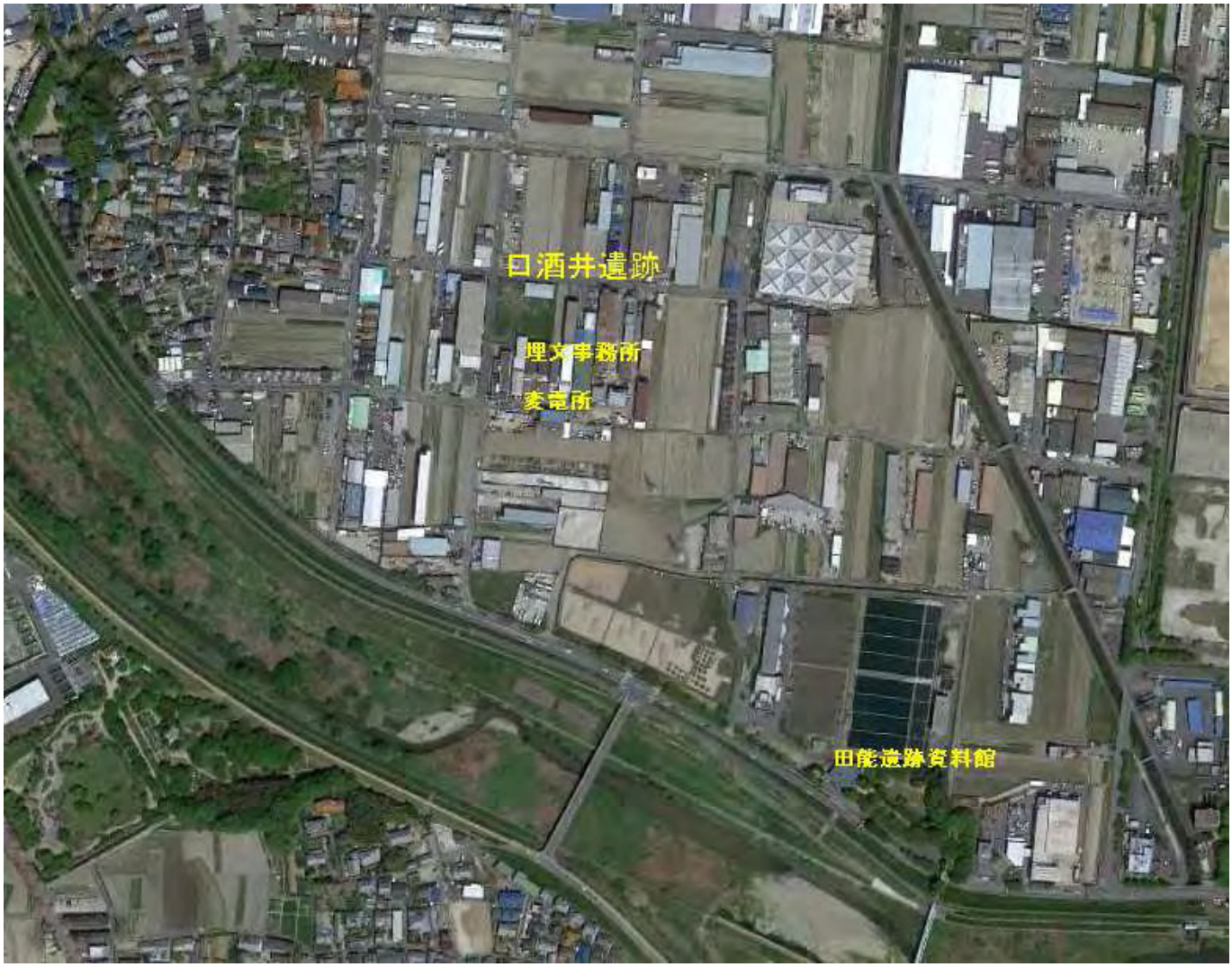
土手から眺める口酒井地区の工場街　この工場街のあたりが口酒井遺跡

土手から直角にまっすぐ東へ入る道を見つけて、口酒井地区へ入ってゆく。住宅の角先にいる人に、「このあたりで、発掘調査していた遺跡を教えて」と聞くとすぐに「まっすぐ行って　突き当りを北に折れたところ　変電所の横だ」とすぐわかった。「あぁそうか　こんなに沢山の送電鉄塔が渡っていくのは　変電所があるから」。

田能遺跡からゆっくり、15 分ほどで、工場街の真ん中にある変電所と金網で囲まれた草地が見え、草地の端に「伊丹市埋文口酒井整理事務所」の看板の上がった建物があり、ここが弥生の初め、東日本からやってきた縄文系の人達が、農耕を始めた弥生の人達と暮らした口酒井遺跡と知れた。

口酒井遺跡　伊丹埋分事務所と変電所がある通り　2012. 12. 21.

口酒井遺跡　北西端から　　2012. 12. 21.



猪名川土手　東へ入る　口酒井地区への入口　　2012.12.21.

【参考資料】

1. 和鉄の道 2006.10 月　弥生の高地性集落に「弥生の戦さ」・「日本人のルーツをさがして」
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf

2. 和鉄の道　2011　近畿 弥生時代後期　淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の 2・3 世紀
「鉄器は出土しないが、急速な鉄器化が進行したという「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符
http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1103iron00.htm

3. NHK 出版「日本人はるかな旅　第 5 巻　そして”日本人が生まれた”」

4. 田能遺跡資料館　特別展「弥生の鉄　石器から鉄器へ」パンフレット

5. 「糸糸　海」30 巻　伊丹文化財保存協会

【参考添付資料】

第42回尼崎市立田能資料館特別展

弥生の鉄

ー石器から鉄器へー

あの五斗長垣内遺跡の鉄器がやって来る！

入館無料

はじめに

縄文時代から弥生時代への大きな変化として、本格的な米づくりの開始と青銅器や鉄器などの金属器が伝わったことが挙げられます。

特に、鉄器が伝わる前は石の道具《石器》が使われていましたが、鉄の固くて切れ味が鋭いという利点から、次第に石器から鉄器へと移り変わっていったと考えられています。

今回の展示では、弥生時代の近畿地方において、どのような種類の鉄器があり、どのようにつくられ、どのように使われていたのかを紹介します。現在では欠かせないものとなった鉄が、日本に伝わったころの様子に迫ります。

金属の腕輪をつくろう

11月23日(金・祝) 午後１時～午後４時

定員20人(小学生以下の方は保護者同伴) 材料費700円

【田能資料館Ｅメールか電話でお申し込みください】

必要事項　住所・氏名・電話番号・年齢

(学校に通われている方は学校名と学年も)

Ｅメール：ama-tanosiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

でんわ：06－6492－1777 (田能資料館開館時のみ)

申込期限　11月15日(木) まで

※応募者多数片の場合は抽選し、結果は11月16日(金) に連絡します。

展示解説会

当館学芸員が解説します

11月18日(日)・12月８日(土)・１月19日(土)

いずれも午後１時から

無料　申し込み不要　当日直接展示会場へ

展示期間

平成24年 **11月10日(土)** ～ 平成25年 **1月20日(日)**

展示場所

尼崎市立田能資料館　展示・学習室

〒661-0951 兵庫県尼崎市田能6-5-1　TEL/FAX：06-6492-1777　入館料：無料

開館時間：午前10時～午後５時(入館は午後４時30分まで)

休 館 日：月曜日(月曜が祝休日の場合は直後の平日)，年末年始 (12月29日～１月３日)

尼崎市公式ホームページから「田能資料館」を検索、または http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/gakusyu/index.html

尼崎市教育委員会 主催

写真：五斗長垣内遺跡の板状鉄斧ほか鉄製品
(淡路市教育委員会提供)

第42回尼崎市立田能資料館特別展

弥生の鉄

ー石器から鉄器へー

星丘遺跡鉄器及び鉄片（左）と鉄器づくりに使用した可能性のある石器（右）
所　　蔵：枚方市教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪展示構成≫

1　五斗長垣内遺跡と弥生時代の鉄器生産遺構

鉄器の生産には、とても高度な技術が必要でした。そのため、弥生時代の近畿地方では、鉄器づくりをおこなえたムラは少なかったと考えられています。このようなムラの１つで、近年発見され、このたび国の史跡に指定される見通しとなった兵庫県淡路市・五斗長垣内遺跡を中心に、近畿地方の鉄器生産の遺構について紹介し、金属が伝わったころの鉄器づくりをひもときます。

2　鉄器の登場

兵庫県内の、確実な例としては最古級の鉄器である、神戸市新方遺跡の鋳造鉄斧片（弥生時代中期中ごろ）などを紹介し、いつごろ近畿地方に鉄器が伝わったかを紹介します。

3　さまざまな鉄器

弥生時代の鉄器は、鉄鏃を除けば、鉄斧や鉄鉋などの工具として一般に広まっていったと考えられています。弥生時代のさまざまな鉄器と、その使い方について解説します。

4　鉄器のつくり方

弥生時代の近畿地方の鉄器生産は、まだ未成熟なものでした。つくり方のわかる鉄器などから、近畿地方を中心とした鉄器づくりの方法を紹介します。

5　見えざる鉄器について

弥生時代後期には多くの鉄器が存在していましたが、溶かして再利用されたり腐蝕によって多くが失われたりしたため鉄器が見つからないという説が、いわゆる「見えざる鉄器」論です。弥生時代後期の遺跡から石器がほとんど見つからないことも、鉄器が普及した証拠の１つとされてきました。

弥生時代後期には近畿地方にどのくらい鉄器が広まっていたのでしょうか。尼崎の石器から考えます。

雲井遺跡鉄鉋
所　　蔵：神戸市教育委員会
写真提供：　　同　上

亀井遺跡鉄鏃
所　　蔵：（公財）大阪府文化財センター
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪主な展示品≫

- 兵庫県五斗長垣内遺跡 鉄器 鉄片 石器（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県内場山墳丘墓 袋状鉄斧 鉄鉋（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県半田山１号墳丘墓 鉄剣（兵庫県指定文化財）
- 大阪府星丘遺跡 鉄器 鉄片 石器
- 大阪府鬼虎川遺跡 鉄鏃 鉄鑿（大阪府指定文化財）
- 大阪府古曽部・芝谷遺跡 板状鉄斧 鉄鉋 刀子
- 兵庫県奈カリ与遺跡 板状鉄斧 鉄鏃
- 兵庫県雲井遺跡 鉄鉋
- 兵庫県新方遺跡 鋳造鉄斧片
- 大阪府亀井遺跡 鉄鏃 板状鉄斧 鉄鑿
- 大阪府崇禅寺遺跡素環頭大刀片

その他約 300 点を展示

崇禅寺遺跡素環頭大刀片
所　　蔵：大阪府教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

●電車とバス

・**阪急園田駅から**　尼崎市バス20・21・21-2・22系統
「田能口(たのうぐち)」バス停下車後、北へ徒歩15分

・**ＪＲ猪名寺駅から**　尼崎市バス20系統
「田能口」バス停下車後、北へ徒歩15分

・**阪神尼崎駅から**　尼崎市バス22系統
「田能口」バス停下車後、北へ徒歩15分

●お車　駐車場あり（無料）

・名神高速豊中インターより北西約３km

・阪神高速豊中南出口より北西約３km

3.　田能資料館開館 50 周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子　　2020. 11 月

田能資料館開館 50 周年記念特別展「田能遺跡の弥生人-田能家の人々-」展示紹介冊子

2020.11.15.　田能遺跡資料館で

田能遺跡の弥生人はどんな人だったのか？ 周辺の遺跡を含め、出土人骨や墓にスポットライトを当てて検討

田能遺跡出土第１号墓▶

尼崎市立歴史博物館田能資料館
開館 50 周年記念特別展

田能遺跡の弥生人

―田能家の人々―

令和２年
11 月 3 日（火）
～ 12 月 20 日（日）

はじめに

弥生時代には大陸から渡ってきた人々によって、米づくりや金属器、機織（はたお）りなど新しい文化が伝えられました。彼らは、従来から日本に住んでいた人々と混血していったと考えられています。

大陸の人々の特徴を持った渡来系弥生人は、面長（おもなが）で平坦な顔立ちをしており、身長は高く、一方、在来系弥生人は、顔は短くてほりが深く、身長は低いという縄文人の特徴を持っていました。

では、田能遺跡の弥生人はどのような人々だったのでしょうか？遺跡から出土した人骨や墓にスポットをあて、田能遺跡の弥生人と近隣の弥生遺跡との関係について考えます。

展示に際して、次の機関から貴重な資料をお借りしました。
記して御礼申し上げます。

伊丹市教育委員会
豊中市教育委員会
兵庫県立考古博物館
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館

また、人骨の計測にあたり次の機関より計測具をお借りしました。
記して御礼申し上げます。

岡山理科大学生物地球学部環境考古学・古生態人類学研究室

展示解説会と
「弥生時代のアクセサリーをつけよう」
11 月 8 日（日）、11 月 22 日（日）、12 月 12 日（土）
いずれも午後 1 時 30 分から
申し込み不要。
検温、マスク持参の上、当日会場にお越しください。
※今後の新型コロナ感染状況によりやむをえず中止となる場合があります。
※資料館 HP にてお知らせいたします。

尼崎市立歴史博物館（あまがさきしりつれきしはくぶつかん）　田能資料館（たのしりょうかん）

田能資料館　検索

〒661-0951　兵庫県尼崎市田能 6-5-1　休館日：月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館し直後の平日を休館）
TEL / FAX　06-6492-1777
http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/104ama_tano/index.html

主催：尼崎市教育委員会

参考挿入　田能遺跡・口酒井遺跡周辺　かつての猪名川河口域に営まれた弥生時代の遺跡図

和鉄の道・Iron Road 2013「水田稲作の始まり　縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」より

https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf

2020.11.20.　by Mutsu Nakanishi 挿入

猪名川東岸と伊丹空港に挟まれたかつての猪名川河口域　弥生時代の初め、弥生系と縄文系の人達が交流する数多くの集落があった

尼崎・伊丹・豊中の境界部にある伊丹空港と西側の猪名川に挟まれた狭い地域には　かつて、縄文 晩期から弥生時代にかけて数多くの集落があり、日本各地からやってきた縄文・弥生系の人達が交流したという。

土地・水利をめぐる弥生の戦はあったが、縄文／弥生系の人達は交流・混在・融合しながら、水田耕作の弥生社会を作りげたという。

こんなことを解き明かす糸口を提供した口酒井遺跡が今、都市化の波の中で忘れ去られようとしている。

2012年12月 田能遺跡で「弥生の鉄」の展覧会があるのを機会に　この田能遺跡とすぐ近く口酒井遺跡を訪ねました。

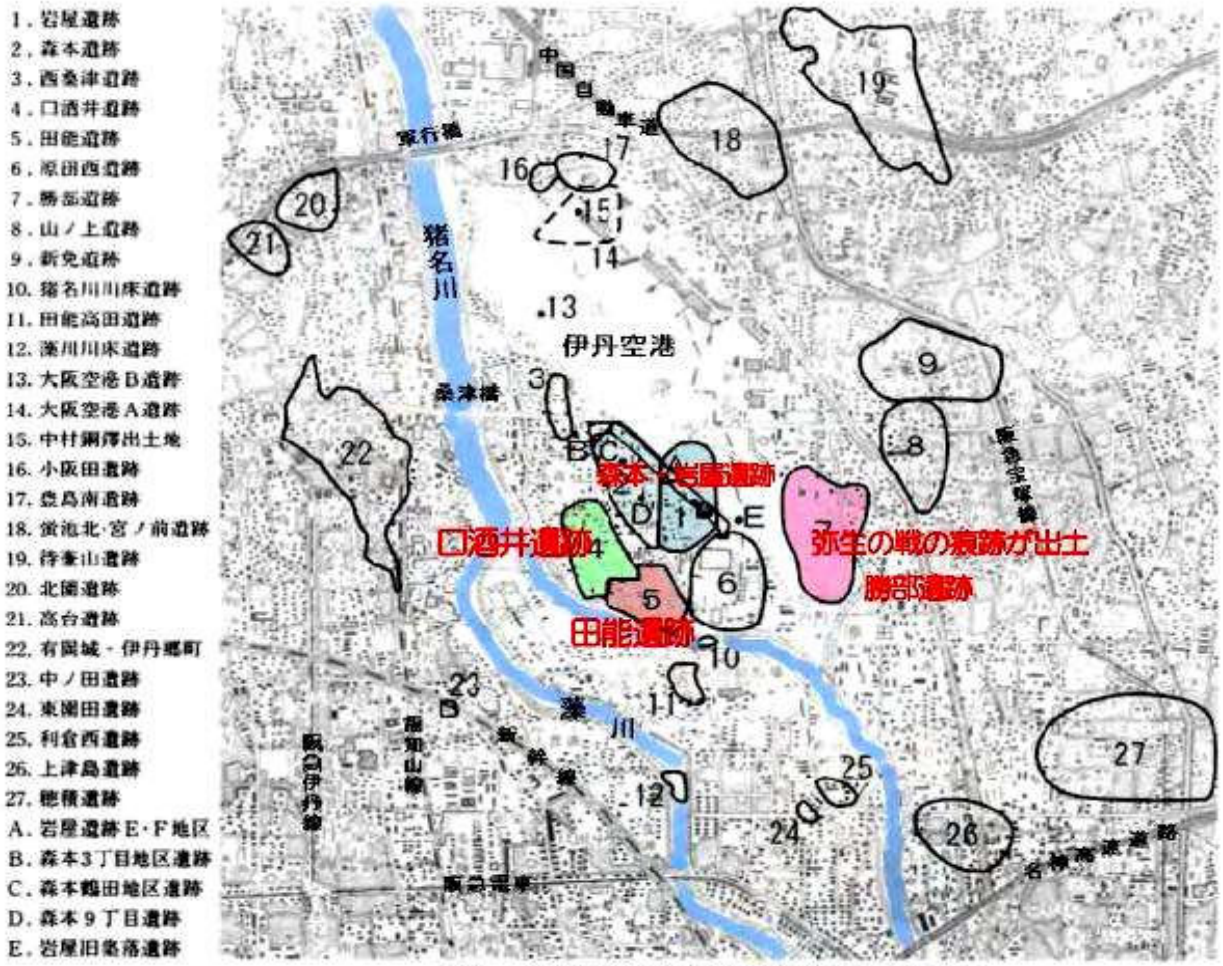
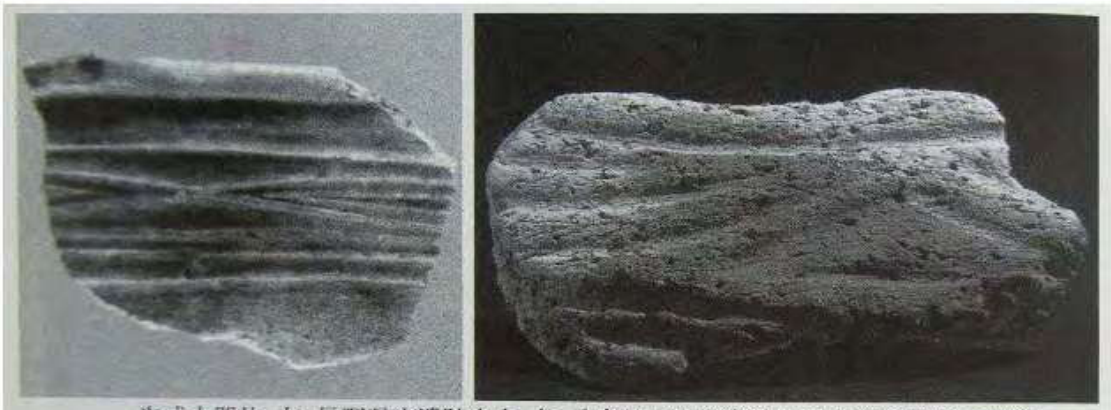


図1　岩屋遺跡と周辺の弥生時代の遺跡（S＝1/50,000）

和鉄の道・Iron Road 2013「水田稲作の始まり　縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」より

NHK 出版「日本人はるかな旅　第５巻　そして”日本人が生まれた”」によれば、
弥生早期頃、東日本の縄文系の人達がたこの大阪湾沿岸のこの地にやってきて、在来の人達と一緒に生活していたことを初めて解き明かしたのが、口酒井遺跡集落だという。



氷式土器片。左・長野県氷遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土[伊丹市教育委員会]

縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡　口酒井遺跡。約２千３百年前（弥生前期）

上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

中里遺跡の土器。左は渡来系、右は縄文系（玉川文化財研究所）

図７　東日本の縄文土器の西方への展開（紀元前４－３世紀頃）

そんな　縄文と弥生の人達の交流・文化融合を始めて解き明かしたのが、口酒井遺跡だという。
このような縄文系・弥生系の人達の融合による日本人の形成については日本人の DNA 分析からも明らかになっている。

「水田稲作の弥生時代は鉄器・戦さの時代　渡来系弥生人が縄文人を駆逐して水田稲作の文化を日本列島に広げていった」と位置づけられた時代もあったが、猪名川河口域の縄文晩期・弥生の集落群が、そんな弥生の始まりの時代感に疑問を投げかけるきっかけとなったのが、この「口酒井遺跡」である

籾が付いていた口酒井遺跡出土土器

日本人の心に脈々と流れる「共に生きる心優しき日本」。コロナ禍の中で、今の生き方を見つめなおす一助になればと。
そんな思いも込めて、今回の田能遺跡特別展を眺めました。
特別展展示内容全体をコンパクトにまとめ、人骨等の解析から、渡来系弥生人と縄文系の人たちが同じ集落に住んで、新しい弥生を時代築いていったとみてとれることをまとめた貴重な小冊子。
そのまま私の記録資料として以下に取り込み記載記録しました。　　2020.11.20.　by Mutsu Na

第１章　縄文人と弥生人

縄文人

彫りが深い

目が大きい

二重まぶた

大きな耳たぶ

ひげが濃い

縄文時代人　左：女性　右：男性

弥生時代人　左：女性　右：男性

［イラスト：石井礼子氏 / 国立歴史民俗博物館提供］

(渡来系)弥生人

面長

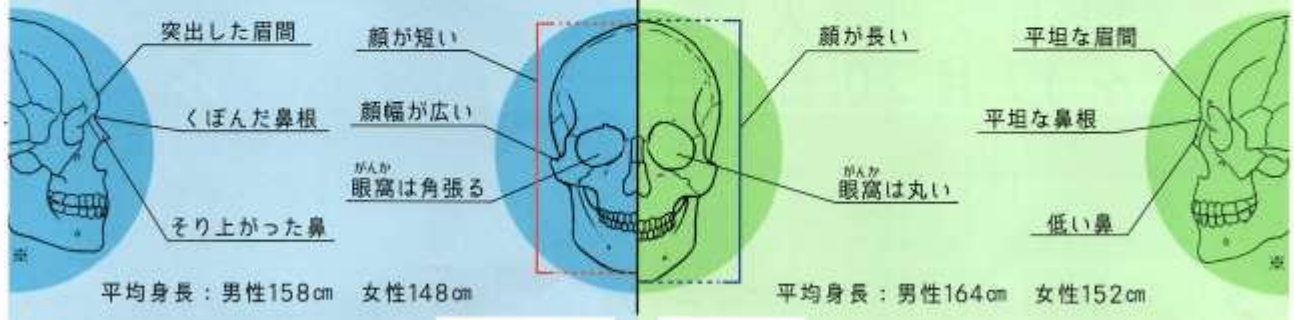
のっぺり顔

まぶたは厚い

目は細い

唇は薄い

ひげなどは薄い



平均身長：男性158cm　女性148cm

平均身長：男性164cm　女性152cm

縄文人的な歯のかみ合わせ

上下の前歯がしっかりかみ合う

弥生人的な歯のかみ合わせ

上の前歯が下の前歯にかぶさる

Brothwell 1981『Digging up Bones』より引用

※中橋孝博 2019『日本人の起源 人類誕生から縄文・弥生へ』を基に作成

第２章　田能遺跡の弥生人　―田能家の人々―

方形周溝墓が３基と、木棺墓８基・木蓋土壙墓５基・土器棺墓４基の計 17 基の埋葬施設が見つかっています。

時期は大きく分けて弥生時代中期と弥生時代後期～古墳時代初めです。

特に第３号方形周溝墓から見つかった第 16 号墓、第17号墓からは豪華な装飾品を身につけた人骨が見つかりました。

田能遺跡第４調査区

埋葬方法について

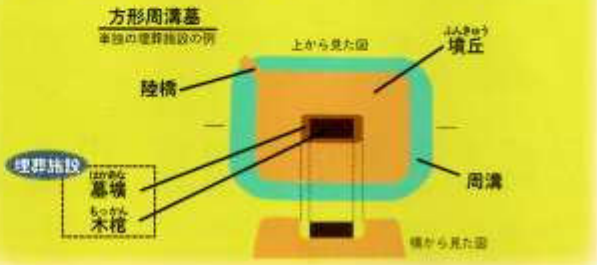
田能遺跡の墓には①土壙墓②木蓋土壙墓③土器棺墓④木棺墓の４種類の埋葬方法があります。③の土器棺は、赤ちゃんが亡くなった時に棺として用いられています。

①土壙墓　②木蓋土壙墓

③土器棺墓　④木棺墓

方形周溝墓と埋葬施設

方形周溝墓は、方形の墳丘の周囲を溝で囲んだ弥生時代に見られる墓です。墳丘には埋葬施設が単独のものや、複数のものがあります。



：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

木棺墓（もっかんぼ）

後期 第2号墓

展示

身長：不明
年齢：17～25歳
性別：不明

埋葬姿勢

体は上向きで足を伸ばした状態で葬られたものを仰臥伸展葬（ぎょうがしんてんそう）といいます。田能遺跡では、ほとんどが仰臥伸展葬ですが、第16号墓だけが膝を立てた上向きで埋葬されていました。

中期 第6号墓

身長：153cm
年齢：10歳程度※
性別：女

後期 第8号墓

身長：163cm
年齢：40歳前後
性別：男

後期 第13号墓

身長：不明
年齢：20～40歳
性別：男？

※歯の観察から成人女性という見解もあります。

豪華な装飾品をつけた弥生人たち

＜第3方形周溝墓＞墳丘部：1辺約19m（周溝含めて1辺約26m）

第16号墓 中期

身長：160cm　年齢：20～40歳
性別：男
埋葬姿勢：仰臥屈脚葬
632個の碧玉製管玉
棺内で水銀朱検出

碧玉製管玉出土状況

碧玉製管玉
（県指定文化財）

第17号墓 中期

身長：160cm
年齢：20～40歳
性別：男
左腕に白銅製釧
棺内で水銀朱検出

白銅製釧出土状況

白銅製釧
（県指定文化財）

木蓋土壙墓（もくがいどこうぼ）

後期 第11号墓

身長：145cm　性別、年齢不明
下半身のみが見つかりました。

後期 第7号墓

展示

身長：147cm
年齢：25～35歳
性別：女
噛み合わせ：縄文人的

後期 第15号墓

身長：145cm以上　年齢：18歳以上
性別：女？　噛み合わせ：縄文人的

55年目の真実！！ ー骨考古学の学芸員が見た1号墓・3号墓

：男　：女　：子ども　：性別不明
頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

第1号墓

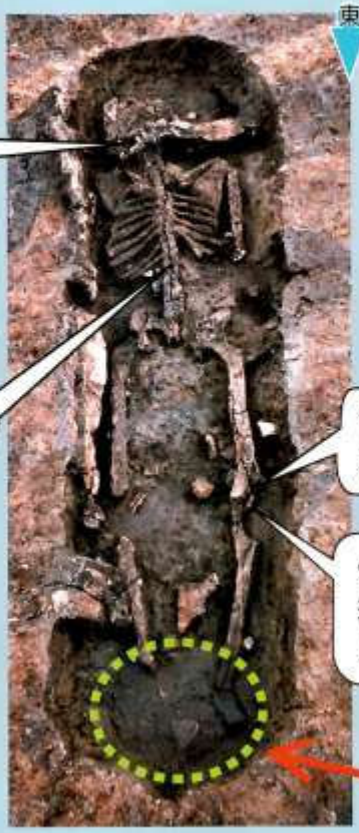
後期

年齢：40歳前後　性別：男
推定身長：153.5cm

出土部位模式図

顔は右向き。

乾燥によるひび割れ。



展示

こう見えています…

膝は外に広がっていて少しガニ股っぽい埋葬姿勢。

骨の下に土器片が。遺体を入れる前に土器片がまかれています。

きっちきち！

止まっていたタイマーは、動き出している…

掘り起こされた瞬間から人骨の劣化ははじまります。発掘当初白かった骨も土と同じ色へと変わりました。人は土へとかえっていきます。

第3号墓

後期

年齢：成人　性別：女
推定身長：147.5cm

出土部位模式図

顔を左に向けて、口を開けています。

右腕は折り曲げています。

膝が内側に向いて足がそろっています。

1号と同様に土壙内に土器片がまかれています。

展示

鎖骨が急角度で傾き、肩を上げた姿勢。墓壙が狭く、人一人はいるにはきゅうくつだった。

せまっ

肩を上げて、腕を曲げているのは狭い土壙に入れるため…？

土器棺墓（どきかんぼ）

：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

中期 第10号墓（壺棺墓）

年齢：乳児

頭蓋骨が壺の上方にあることから、遺体は足を下にして壺棺に入れたことが分かります。土器内部には丹（赤色顔料）がありました。

後期 第12号墓（壺棺墓）年齢：2～3歳

幼児の上下顎と乳歯が残っていました。

中期 第20号墓（壺棺墓）

年齢：胎児もしくは乳児

第9号墓（甕棺墓）には人骨は残っていませんでしたが、土器内部に丹がありました。

第3章　勝部遺跡の弥生人

2基の方形周溝墓に木棺墓8基・土壙墓3基・土器棺墓3基の計14基の埋葬施設が見つかっています。

時期は2基とも弥生時代中期です。

第2号墓、第4号墓、第7号墓から石鏃、第3号墓からは石槍が見つかり、争いの犠牲となったと考えられています。

ココが石槍

第1区墓域

第2区墓域

争いの犠牲となった弥生人

第2号墓 中期

身長：不明　埋葬姿勢：不明

墓：土壙墓

頭部は破壊されており、肋骨も乱れています。5個の石鏃が発見され、うち2点は先端が肋骨と腰骨に向くので刺さっていたと思われます。

石槍が刺さっています。

第3号墓 中期

身長：145cm？

埋葬姿勢：仰臥伸展葬

墓：木棺墓

頭部は故意に破壊されたように見えます。胸骨と腰骨に食い込むように石槍が残存していることから、右後方から刺されたと考えられます。

第4号墓 中期

身長：不明

埋葬姿勢：仰臥屈脚葬

墓：木棺墓

足付近から石鏃が1点見つかっています。

第7号墓 中期

身長：不明

埋葬姿勢：仰臥伸展葬？

墓：木棺墓

棺の中央付近から石鏃が1点見つかっています。

勝部遺跡の資料はすべて豊中市教育委員会所蔵。写真は特に記載のない限り豊中市教育委員会提供。

：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

第1号墓 中期

身長：160cmくらい
年齢：30～40歳
性別：男
埋葬姿勢：仰臥伸展葬
墓：木棺墓

第6号墓 中期

墓：木棺墓

第8号墓 中期

性別：男　墓：土壙墓

大腿骨に柱状突起があるため、筋力の多い人物であると考えられます。

大腿骨断面図

第10号墓 中期

年齢：子ども
墓：木棺墓

残存しているのは歯と一部の顎の骨のみで、その成長度から子どもと考えられます。

第9号墓 中期　展示

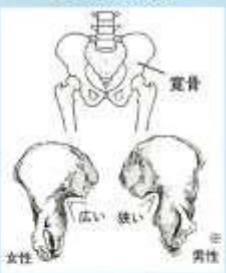
身長：152～154.2cm
年齢：成人
性別：女
埋葬姿勢：仰臥屈脚葬
墓：木棺墓

勝部遺跡出土人骨の中でもっとも残存状態が良好です。

上腕骨（じょうわんこつ）、大腿骨（だいたいこつ）、脛骨（けいこつ）を計測し、身長を復元することができました（152～154㎝）。また、寛骨（かんこつ）の形から女性ということがわかりました。

骨格は正常な位置から大きく動き、関節はつながっていません。これは遺体が完全に白骨化したのち、棺内に水などが流入したためと考えられます。

出土部位模式図



寛骨の性差
※Brothwell 1981『Digging up Bones』より引用

［豊中市教育委員会蔵／当館撮影］

計測値から求めた身長の復元結果

	身長（cm）		計測値（mm）	
	右	左	右	左
上腕骨	152.0	―	297	―
大腿骨	154.2	153.1	416	(409)
脛骨	152	―	337	―

（ ）内は復元計測値。計算式は藤井の式（藤井明 1960『順天堂大学体育学部紀要 3』）を使用

計測はすべて「マルチン式人骨計測法」（人類学講座編纂委員会 1991『人類学講座 別巻1』）に基づいて行いました。

勝部遺跡の資料はすべて豊中市教育委員会所蔵。写真は特に記載のない限り豊中市教育委員会提供。
当館撮影の写真については所蔵先に掲載の許可をいただいています。

：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

第 12 号墓（甕棺墓）中期

甕棺

底部に人骨らしき石灰粒が残っていました。土器の下部に孔があけられています。

第 13 号墓（甕棺墓）中期

左：甕棺（蓋）　右：甕棺（身）

土器の下腹部に孔があけられています。

甕棺（身）裏

第 14 号墓（壺棺墓）中期

左：壺棺（蓋をした状態）　右：壺棺（蓋を外した状態）

土器の下部に孔があけられています。

勝部遺跡の資料はすべて豊中市教育委員会所蔵 / 写真提供

第 4 章　原田西遺跡の弥生人

昭和 50 年～ 58 年の調査では南地区 3 基、東地区 10 基、平成 15 年度の調査で 1 基、合計 14 基の方形周溝墓から 5 基の埋葬施設が見つかっており、うち 3 つからは木棺とその破片が見つかっています。

時期は弥生時代中期で、人骨は見つかっていません。多くの周溝墓に陸橋があります。

昭和 56 年度調査地区全景

方形周溝墓 SX3

SX3 主体部 2（木棺墓）

方形周溝墓出土の土器について

原田西遺跡の方形周溝墓群出土の土器には同時期の土器であるにも関わらず、新しい文様（凹線文）を施した土器と古い文様（櫛描き文）のみを施した土器が共に出土しています。これは田能遺跡や口酒井遺跡とは異なった特徴です。新しい文様を持つ土器と、古い文様のみを持つ土器が長期にわたり共に出土することを考えると、原田西遺跡の人々は葬送儀礼において昔ながらの伝統を引き継いでいたのかもしれません。

原田西遺跡方形周溝墓出土弥生土器
［兵庫県立考古博物館蔵 / 当館撮影］

原田西遺跡の資料はすべて兵庫県立考古博物館所蔵。写真については特に記載のない限り兵庫県立考古博物館提供。
当館撮影の写真については所蔵先に掲載の許可をいただいています。

第 5 章　口酒井遺跡の弥生人

円形周溝墓 5 基、方形周溝墓 2 基と、木棺墓 6 基・土壙墓 3 基・壺棺墓 7 基、土壙墓あるいは土器棺墓と考えられるもの 1 基の計 17 基の埋葬施設が見つかっています。

時期は弥生時代前期から後期で、木棺墓から人の歯が見つかりました。

第 9 次調査　円形周溝墓

第 25 次調査　全景

木棺墓 1 前期

歯のみ残存
朱があり

木棺墓 3 前期

歯のみ残存
頭部付近に石鏃が出土

木棺墓 4 前期

年齢：10 ～ 14 歳　性別：女？
歯のみ残存

土壙墓 SK-6 中期

歯のみ残存

口酒井遺跡出土資料はすべて伊丹市教育委員会所蔵。写真については報告書より転載。

弥生時代の葬送儀礼？

口酒井遺跡からは、当時の葬送儀礼を示す壷と甕が見つかりました。壷や甕の中から河原石と炭が見つかっており、壷（G52）の中からはコウヤマキの炭が見つかりました。炭は土器の中で燃やされたもので、葬送儀礼の一行為だと思われます。

壷の中から見つかった炭と河原石
［口酒井遺跡報告書より転載］

口酒井遺跡出土弥生土器
［伊丹市教育委員会蔵／当館撮影］

穴があけられている土器

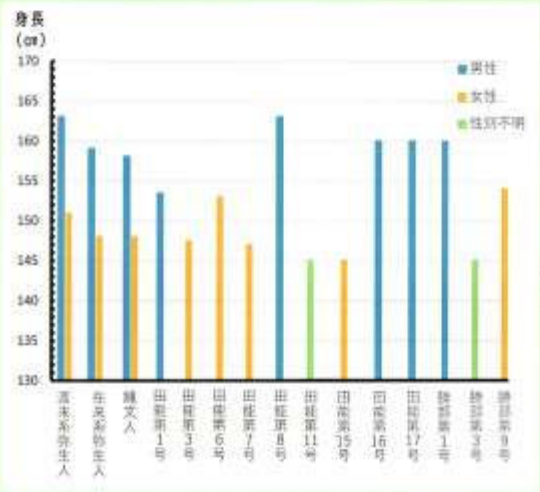
墓から出土する土器には穴があけられているものが多くみられます。穴をあけることで土器は使えなくなるため、葬送儀礼に使われたと考えられます。

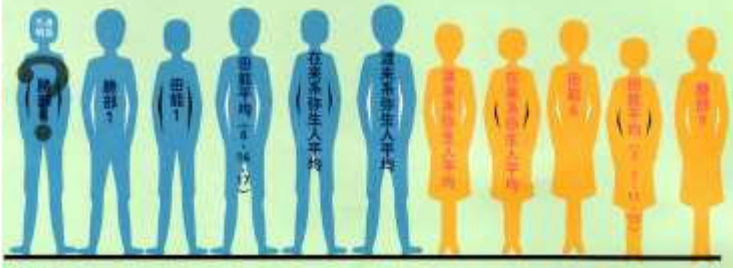
口酒井遺跡出土弥生土器
［伊丹市教育委員会蔵／当館撮影］

当館撮影の写真については所蔵先に掲載の許可をいただいています。

第６章　さいごに　ー田能家の人々と周辺の人々ー

弥生人の平均身長と田能遺跡・勝部遺跡の弥生人の身長





男性

- 在来系の平均より高い
- 一部在来系の平均より低い（田能１）

女性

- 在来系の平均より低い
- 性別不明（田能１１・勝部３）は身長から女性の可能性
- 渡来系よりも高い（田能６・勝部９）

田能遺跡と勝部遺跡の出土人骨について

田能第８号・第６号や、勝部第９号のような高身長の人物がいる一方で、田能第７号・15号では歯のかみ合わせ、勝部第８号では大腿骨に柱状突起をもつなど縄文人の特徴をもっていた人がいます。近畿地方では、在来系弥生人と渡来系弥生人が混在しているとの研究結果もあり、田能遺跡と勝部遺跡もこのような状況を示していることがわかります。

各遺跡のまとめ

田能遺跡…渡来系と在来系が混在していました。大規模な埋葬施設と豪華な装飾品を身に着けた人物がいました。

勝部遺跡…渡来系と在来系が混在していました。争いの犠牲者の墓があります。

原田西遺跡…方形周溝墓に供えた土器には古い文様のみで装飾された土器が長い間使われていました。これは田能遺跡、口酒井遺跡とは異なります。方形周溝墓には陸橋があります。

口酒井遺跡…周辺遺跡で唯一、円形周溝墓が見つかっており、弥生時代の葬送儀礼の一端がわかります。

主な参考文献

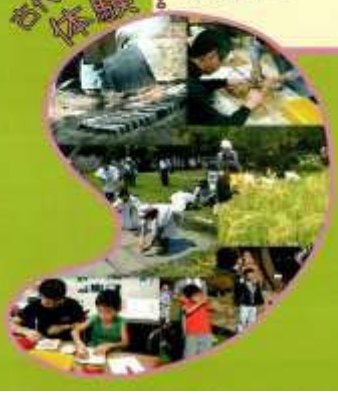
尼崎市教育委員会 1982『尼崎市文化財調査報告第 15 集　田能遺跡発掘調査報告書』
伊丹市教育委員会 1995『伊丹市埋蔵文化財調査報告書第 20 集　口酒井遺跡発掘調査報告書　第 22・25 次調査』
伊丹市教育委員会・六甲山麓遺跡調査会 2000『口酒井遺跡ー第１次～第 10 次・第 12 次～第 16 次調査の概要ー』
豊中市教育委員会 1972『勝部遺跡』
兵庫県教育委員会 2009『兵庫県文化財調査報告第 361 冊　原田西遺跡ー猪名川流域下水処理場における急速ろ過施設に伴う発掘調査報告書ー』

尼崎市立 田能資料館

田能遺跡は、一九六五（昭和四〇）年の工事中にたくさんの弥生土器が出てきたことで、発見されました。急いで調査をした結果、今から約二千年前の弥生時代の人びとがくらしていた跡や使っていた道具などが見つかりました。

弥生時代について多くのことを教えてくれるとても大切な遺跡であることから、工事を変更して遺跡の一部を地下に保存し、その上に資料館を造りました。弥生時代のくらしを見たり体験できたりするところです。

開館時間／午前10時～午後5時（ただし、入館は午後4時30分まで）
休館日／月曜日（月曜日が祝休日の場合はその直後の平日）・年末年始（12／29～1／3）
入館料／無料　ホームページ／尼崎市公式ホームページから「田能資料館」を検索
〒661-0951　兵庫県尼崎市田能6-1-1　電話・FAX／06-6492-1777
Eメール／aami-tanosi@yahoo.co.jp



田能資料館では子どもから大人まで参加できる「古代のくらし体験学習会」を行っています。ぜひ参加してね（申し込みが必要だよ）。

主な体験学習会
- 勾玉づくり　・古代米づくり
- 弥生体験（※小学4～6年生対象）
- 石鏃づくり　・青銅器づくり
- 弥生土器づくり

（詳しくは田能資料館ホームページや市報あまがさきをチェックしてね）

田能遺跡サポーター倶楽部

平成27年度の復元住居の屋根の葺き替えをきっかけに、ボランティアとして田能資料館の事業をサポートしています。団体見学の小学生に土器の説明をしたり、古代のくらし体験学習会では、製作のサポートをしています。学習会のために事前練習をしたり、収蔵する土器の整理をしたり、来館者に喜んでいただけるように、活発に活動しています。

土器整理作業

学習会でのサポート

利用案内

開館時間　午前10時から午後5時（入館は4時30分まで）
休館日　月曜日（ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、その直後の平日を休館）・年末年始（12/29～1/3）
入館料　無料（ご希望により説明を致します。）
- 団体でお越しの際は事前にお申し込みください。
- 大型バスは田能口からは入れません。

交通案内

電車
阪急園田駅前から、阪神バス「石神行き、今津行き・阪急塚口ゆき・阪神武庫川ゆき」ともに「田能口」下車、徒歩15分
JR尼崎駅前から、阪神バス「東園田ゆき「田能西」下車、徒歩10分
阪急武庫川駅前から、阪急バス「クローンランドゆき「田能」下車、徒歩5分
阪急伊丹駅前から、伊丹市バス「武庫川線「クローンランド」下車、徒歩5分

車
名神高速豊中ICからおよそ3km

尼崎市立田能資料館
〒661-0951　兵庫県尼崎市田能6-1-1
TEL/FAX 06-6492-1777

田能資料館開館までの道のり

田能遺跡の発見

昭和40年9月、尼崎市田能字中ノ坪（現在の田能六丁目）で尼崎、伊丹、西宮三市共同による工業用水園田配水場建設工事現場から、偶然大量の弥生土器が発見されました。

10月から約1年間の発掘調査では、大量の土器や石器のほか、碧玉製管玉、白銅製鈴、銅剣鋳型（3件は県指定文化財）など大変貴重な遺物が出土し、田能遺跡と名付けられました。

とくに、人骨を伴う木棺墓や甕棺墓の発見は、弥生時代の墓や埋葬方法がわかる貴重な発見となりました。しかし、調査終了後は配水場建設によって破壊される予定となっていました。

発掘調査 ―全国の考古学の研究者に助けられて―

発掘当時、調査体制は整っておらず、遺跡の規模に比べて考古学の専門調査員が不足していました。調査の統括者は、調査員を確保するため、考古学会で、遺跡と調査員の不足を呼び掛けると、全国から多くの若い調査員が集まりました。

調査風景

保存運動 ―はじまりは市民のやさしさから―

市民による炊き出し

一方、発掘現場では、弥生人の墓を見ようと連日多くの人々が詰めかけました。

全国から集まった若い調査員たちが、暑さ寒さの中、懸命に働く姿を、じっと見つめる市民がいました。彼らはその姿に心打たれ、差し入れや炊き出しをして、調査員を支援しました。

やがてこの支援は、遺跡の保存運動へと広がっていきました。

資料館の開館 ―市民の思いが実る―

この熱心な保存運動によって、墓の出土地域は保存が決定され、昭和44年6月30日には、国の史跡に指定されました。昭和45年7月25日、市民の思いは結実し、ついに田能資料館が開館しました。阪神間でも、非常に早い時期の資料館の誕生です。

屋外には復元住居や高床倉庫のほか、墓を復元しています。

田能遺跡について

弥生時代は、今から2400年前（3000年前の説もあります）から1700年前、日本に稲作、鉄器や青銅器などの新しい文化が中国大陸や朝鮮半島から伝わった時代です。田能遺跡には弥生時代の全期間をとおして、人々が暮らしていました。

昭和40年当時、近畿地方ではほとんど出土例がなかった墓が人骨とともに発見され、弥生時代の墓制に新たな知見が加わりました。とくに、632個の碧玉製管玉の首飾りや左腕に白銅製鈴（腕輪）をつけた人々の発見は、田能の集落に指導者がいたと推定することができます。また、銅剣の鋳型は近畿地方で初めて発見され、1000度以上の高温で青銅を鋳造する高度な技術をもつ者がいた可能性を示す貴重な発見でした。

当時田能の集落は猪名川の河口に位置していたため、豪華な副葬品をもっていた人々は、ここで物資を集積し、近隣の集落に物資を差配する権限と役割を担っていたのではないかと考えられています。

白銅製鈴　碧玉製管玉　銅剣鋳型
兵庫県指定文化財

展示・事業案内

常設展示案内

田能遺跡から出土した土器などの遺物や、発掘現場から切り取って保存した弥生時代の墓も展示しています。年に1回、テーマに沿って近隣の市町から貴重な資料を借りて展示する「特別展」のほか、学習展示などの「企画展」を開催しています。

弥生時代中期の土器

古代のくらし体験学習会

当館では、昭和46年から体験・参加型の「古代のくらし体験学習会」を開催しています。

弥生土器づくりや、青銅器づくり、石のやじりづくり、勾玉づくりなどを実施し、古代のくらしについて学ぶ機会としています。

弥生土器づくり

青銅器（銅鈴）づくり